

4

STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育の充実

目的

・児童生徒の学びへの知的好奇心を高めるとともに、自ら問題を発見し、解決へ向けたプロセスや更なる疑問へアプローチする力と創造力、表現力の育成を行います。

対象 児童生徒・教員

属性 継続／発展

所管課 教育センター

概要

- STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育推進プラン<sup>※1</sup>を策定し推進します。
- 小学校・中学校科学教育センターでは、児童生徒が新たな知見を得られるような講座を開拓するとともに、運営体制の見直しを行います。
- 科学教育センターの学びを、各校へ発信していきます。特に、ICT を活用したプログラミング講座については、学校でも実施できるように教材の共有や活用方法を発信します。あわせて、科学教育センターのゲストティーチャー等の外部人材の活用についても、学校へ情報を発信していきます。
- 大学、高等学校、高等専門学校、企業等の外部人材と連携を図り、先端の科学や本物に触れる機会を多く設け、専門性の高い講座を実施します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒: 先端の科学や学校の授業では経験できないことに触れることができます。また、様々な分野の体験活動により、論理的思考力や創造力、表現力を高めることができます。

▶ 教員: 科学教育センターの講座内容や教材を学校へ発信すること等により、学校の授業へ STEAM 教育の視点を取り入れる際に生かすことができます。

経営の視点

▶ 科学教育センターの講座内容については、STEAM 教育の視点をもって柔軟に変更していくことが可能です。

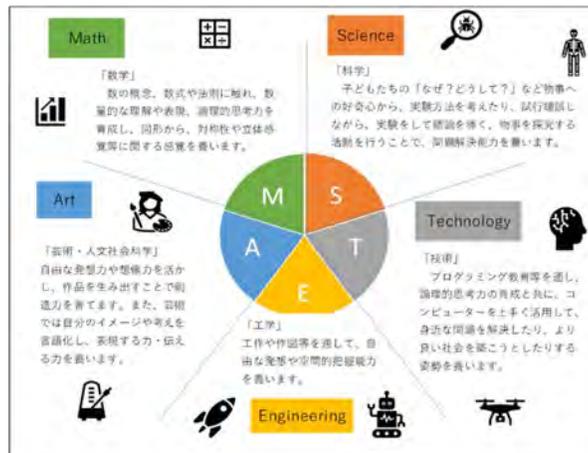
▶ 教員の研修の専門的知識の研修の場としても活用できます。

独自性の視点

▶ 市内大学、高等学校、高等専門学校、企業等の地域資源を積極的に活用し、それぞれの強みを生かした科学教育を展開することができます。

学び続ける  
力の要素

○ 自ら問題を発見し、解決へ向けたプロセスや更なる疑問へアプローチする力や、創造力、表現力の育成から、「挑戦しようとする力」、「粘り強く取り組む力」が育まれます。



## 活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	
①STEAM 教育の視点を取り入れた科学教育推進プランの推進		科学教育推進プランの策定	科学教育推進プランの推進				
指標の達成状況	▶ —	策定	推進	推進	推進	推進	
②科学教育推進アドバイザー※2の配置人数			配置				
指標の達成状況	▶ —	—	1人	1人	1人	1人	
③小学校・中学校科学教育センター講座内容の充実		STEAM 教育の視点を取り入れた講座の実施					
		委託検討	一部委託化				
指標の達成状況	▶ —	実施	実施	実施	実施	実施	
④町田市大学・企業連携事業人材リストの活用		仕組みづくり	人材を活用した講座の実施				
指標の達成状況	▶ —	検討・構築	実施	実施	実施	実施	



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

●IV- 1- 34 コミュニティ・スクールの推進( P128)

※1 科学教育推進プラン…町田市立小・中学校の児童・生徒に対して科学教育を推進していくためのプラン。

※2 科学教育推進アドバイザー…町田市の科学教育推進のために、小学校及び中学校科学教育センターの運営や町田市立小・中学校に対して情報発信や助言を行うスタッフ。

## まちだ 教育コラム

### 6

#### STEAM教育とは？

急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じてきている今日。

学校で学習している国語や算数、数学等の各教科や文系・理系といった枠にとらわれず、各教科等で学んだ知識や技術を合わせながら、課題を見つけ、解決したり、新しい変化や社会的な価値の創造に結びつけていく資質・能力の育成が求められています。

STEAM 教育は、Science(科学)、Technology(技術)、Engineering(工学)、Arts(芸術・人文社会科学)、Mathematics(数学)の頭文字をとった教育概念です。STEAM 教育は、各教科で学んだ知識や身に付けた技術を関連付けながら、実際の社会の中で起きている問題を主体的に発見し、解決することに取り組んでいく、教科等の横断的な学習です。

## 5

## ICT を活用した学びの充実

## 目的

・教員が、個別最適な学びや協働的な学びを意識した授業実践を行うことができるよう、教員の ICT スキル向上を図るとともに、BI ツール※1を活用することで、教育データの利活用を図ります。

**対象** 児童生徒・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

指導課

## 概要

- ICT 授業支援員※2を配置し、教員の ICT スキルの向上を支援します。
- ICT 授業支援員の指揮監督を担う ICT スーパーバイザー※3を配置することで、事例・教材等の効果的、効率的な共有を図り、学校間の ICT スキル格差を解消していきます。
- モデル校を設定して教育データの利活用について研究し、成果を全校に広げていきます。
- BI ツールを導入し、教育データ(学校での学習状況や評価、学習ドリルソフトの取組状況、各種学力調査の結果、意識調査の回答、授業への評価等)の集約・分析を行います。
- ICT活用を進めていく上で必要となる情報モラル、デジタルシティズンシップ※4について、学年ごとに目指す子どもの姿を定め、教員が指導できるよう研修を行っていきます。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒:データに基づく分析結果を踏まえた効果的な教育を受けることができます。
- ▶ 教員:教員の ICT スキルの向上に関する支援を受けることができます。また、あらゆる教育データ(学校での学習状況や評価、学習ドリルソフトの取組状況、各種学力調査の結果、意識調査の回答、授業への評価、等)を集約・分析することで、児童・生徒の学力面での課題、各学校の授業の課題を明らかにし、児童生徒の実情に合わせた課題設定をすることができます。

## 経営の視点

- ▶ 国が進めている学習 e ポータルや MEXCBT※5等の先進的な ICT 教育環境への移行を見据え、教員の ICT 活用スキルの底上げを図ります。
- ▶ 教材のデジタル化や学校間での共有が容易になり、教員の負担軽減につながります。
- ▶ 児童生徒や教員・学校の状況把握を客観的な根拠に基づき、より早く、的確にできるようになるため、環境の変化に対する対応力が向上します。

## 独自性の視点

- ▶ BI ツールを導入し、教育委員会主導による教育データの収集・分析を行います。

学び続ける  
力の要素

- 学習履歴や教育データを基にした個別最適な学びにより、児童生徒の「自分を見つける力」「挑戦しようとする力」が高まります。また、共同編集機能や各種アプリを活用した協働的な学びが充実し、児童生徒の「人のよさを認める力」「協力しようとする力」が高まります。

※1 BIツール…「ビジネスインテリジェンス(Business Intelligence)ツール」の略で、様々なデータを分析・見える化して、迅速な意思決定を助け、学校経営や授業、校務等の改善に役立てるためのツールのこと。

※2 ICT 授業支援員…教員の指導力・授業力を向上させるため、ICT を活用した授業の指導・補助を行う人材のこと。学校における ICT 活用に知見をもつ事業者に業務委託している。

※3 ICT スーパーバイザー…ICT 授業支援員の指揮監督、指導育成を担う人材のこと。

※4 デジタルシティズンシップ…デジタル社会において、デジタル技術を通じて、「社会に積極的に参画する力」のこと。

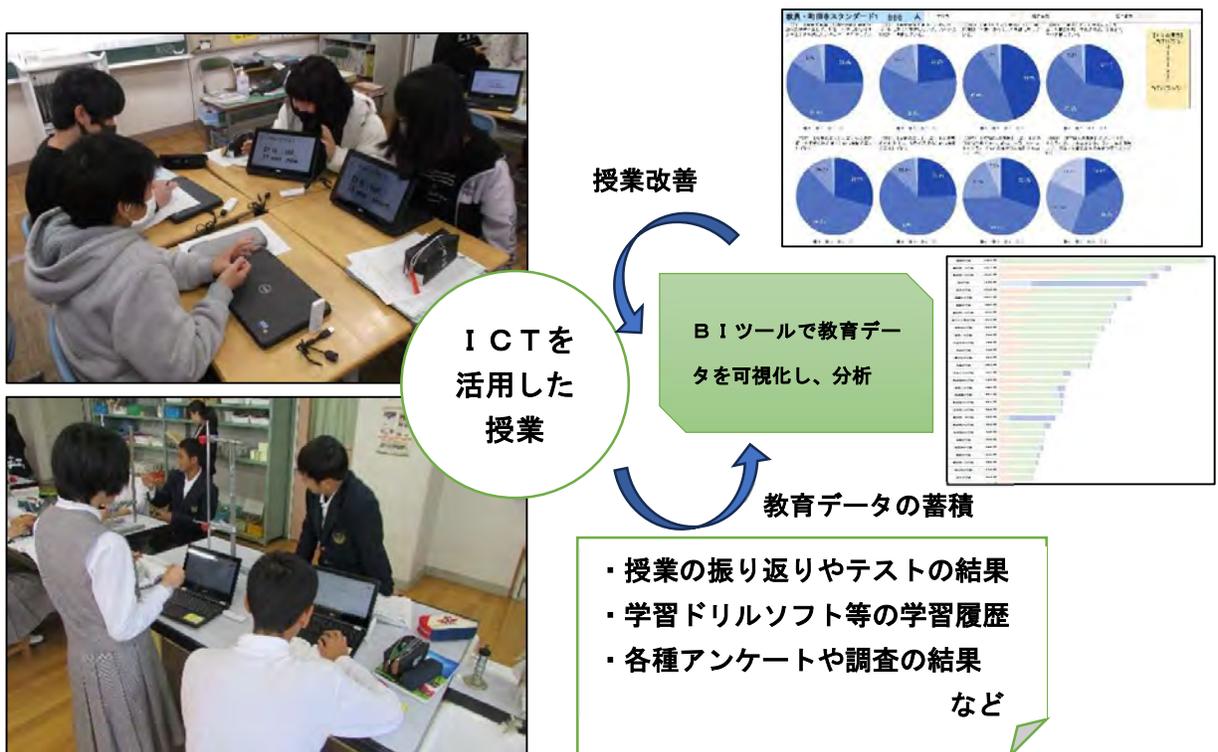
※5 MEXCBT…文部科学省(MEXT)が開発した Computer Based Testing(コンピューター使用型調査)のこと。児童や生徒が端末を用いてオンラインで問題演習に取り組むことができる。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①授業における ICT 活用による自信をもっている教員の割合		ICT 授業支援員の配置				
指標の達成状況 ▶	43.0%	50.0%	57.0%	64.0%	70.0%	75.0%
②推進モデル校による教育データの活用校数（小2・中2）		モデル校での実施				
指標の達成状況 ▶	—	4 校	4 校			
③授業改善のために BI ツールの教育データ分析結果を活用した教員の割合		市独自調査の分析結果提供				
		モデル校での実践事例の展開		実践事例の展開		
指標の達成状況 ▶	—	40.0%	50.0%	60.0%	70.0%	80.0%
④教員向け情報モラル研修の開催回数		研修実施				
指標の達成状況 ▶	—	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回

**連動事業** ▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- Ⅲ- 1- 24「学校における ICT 環境の整備」( P104)
- Ⅳ- 3- 42「学校支援体制の強化」( P148)



## 6

## キャリア教育の推進

## 目的

・様々な体験や他者との関わり、自分のことを見つめる機会等を設けることで、自分自身のことを理解し、自分なりの学ぶ意義を理解することにつなげます。

**対象** 児童生徒

**属性** 継続／発展

**所管課**

指導課

## 概要

- 児童生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供することを中心とした『小中一貫町田っ子カリキュラム※1「キャリア教育」』に基づき、中学生職場体験事業に加え、「CAPS・MESE※2」（企業経営の意思決定シミュレーション）や販売体験、金融教育講座など、キャリア教育に関する学習活動や外部人材の活用等についてまとめた「町田市版キャリア教育プログラム」を2024年度に作成し、2025年度から小・中学校全校で実施します。
- 2025年度から、各学校の学習活動や外部人材情報を市内の各学校で共有し、学校の特色に応じたキャリア教育を小・中学校全校で実施することができるよう「町田市版キャリア教育プログラム」の更新を行います。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：学ぶこと・生きること・働くことを通して、自分自身と他の人や様々な物・事との関係性についての理解を深め、主体的に判断し行動しようという意識を高めることができます。

## 経営の視点

▶ 各校の実態に応じて、多様な取組を実施することができます。  
▶ 町田新産業創造センターや市内事業者との連携を図り、多種多様な主体とともに児童生徒へ様々な経験やチャレンジの機会を提供します。

## 独自性の視点

▶ 一人1台端末を活用したキャリア・パスポート※3（電子版）を引き続き活用します。  
▶ 市内の学校の好事例や町田市の子どもたちの実態や地域性に応じた、町田市版キャリア教育プログラムを推進します。

学び続ける  
力の要素

○ 様々な活動を通して、自分自身のことや他者との関わり等を考える機会をもち、「自分を見つめる力」、「ポジティブに考える力」を育成します。

※1 小中一貫町田っ子カリキュラム…規範教育、キャリア教育、健康教育（食育）の3つの領域について、どの小・中学校でも効果的な学習ができるように作成された小・中連続のカリキュラムのこと。

※2 CAPS・MESE…児童・生徒が、PC上で会社を経営し、価格や広告費など、商品販売に関する要素について話し合いで決定する意思決定シミュレーションプログラム。

※3 キャリア・パスポート…小学校から高校までのキャリア教育に関する活動について、児童生徒が自分の学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりしながら、自分自身の変容や成長を自己評価できるように蓄積していく記録（ポートフォリオ）のこと。

## 活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①中学生職場体験事業の実施		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
②キャリア教育に関する学習活動や外部人材の活用等の学校の特色に応じたキャリア教育の取組の実施校数		実施				
指標の達成状況 ▶	小学校 28 校 中学校 9 校	全校	全校	全校	全校	全校



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

●IV- 1- 34 コミュニティ・スクールの推進 (P128)

 まちだ  
教育コラム  
7

## キャリア教育で育む力

「キャリア」とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割や自分との関係を見だしていく連なりや積み重ね」です。「キャリア教育」は、学校の教育活動を通じて、児童生徒一人ひとりの発達の段階に応じ、「キャリア」を形成させていく取組であり、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力や態度を育成することを目的としています。

キャリア教育で育成を目指す力は、「基礎的・汎用的能力」と呼ばれ、「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」の4つです。

キャリア教育の目的の達成に向けて、基礎的・汎用的能力を児童生徒が常に意識し、自己を見つめられるようにすることが重要です。

町田市では、「基礎的・汎用的能力」の育成の視点として、特に「自己理解・自己管理能力」の育成に重点を置き、児童生徒の発達段階に応じて「自分がしたいこと」(小学校低学年から)、「自分ができること」(小学校中学年から)、「社会とのつながり」(小学校高学年から)の3つを設定し、学校の教育活動全体でキャリア教育の推進を図ります。

今まで以上に児童生徒へ様々な経験やチャレンジする機会を提供すること、各教科の学習と「キャリア教育」との関連を図ることに重点を置き、各学校が特色を生かしたキャリア教育を充実させることで「自己理解・自己管理能力」の育成を目指していきます。

## 目的

・学力向上や体力向上等の町田市の教育施策をより効果的なものとするために、教育分野に限らず様々な専門分野から子どもをとらえる研究を行います。

**対象** 児童生徒・教員

● 属性

新規

● 所管課

指導課

## 概要

- 児童生徒の学習上での課題に対して、教育分野の専門家だけでなく、子どもの学びに関する研究を進めている様々な分野の研究者に協力を仰ぎ、課題を深く調査研究できる体制を構築します。
- 従来の学力調査等の一般的なテストでは、子どもたちが「どこでつまずいた」のかはわかっても「なぜつまずいた」のかはわかりませんでした。一人ひとりの子どもたちの「つまずき」の原因を探るため、教育委員会が主体となって調査研究をします。さらに、調査研究の結果や情報を教員が子どもたちの学習や学校生活全体での指導や支援に活用できるようにします。
- これまでの教育施策はそれぞれの目標ごとに別々の取組を進める傾向がありましたが、「学力と体力」、「学力とキャリア教育」など、教育施策間の相関関係や相乗効果に関する研究を行います。
- これまで町田市が進めてきたICT教育や協働(共同)的な学びは、今後の町田市の教育においても中心的な施策となります。そのため、ICTを活用した町田市立小・中学校の授業や協働(共同)的な学びを行うこれからの学校の在り方についても研究を行っていきます。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒：自分自身の学習における「つまずき」がわかるため、その「つまずき」を踏まえて学習を進めたり、個別の学習支援を受けたりすることができます。
- ▶ 教員：調査研究から、一人ひとりの子どもたちの「つまずき」を把握することができるため、学習や学校生活全体での指導や支援について、研究結果とこれまでの指導実践を合わせて、より効果的な手法を選択することができます。

経営の視点

- ▶ 社会的な要請だけでなく、町田市の実態を基にした教育施策の展開に生かすことができます。
- ▶ 1つの施策に対して他の施策との相乗効果等、様々な視点で評価及び検証をすることで、より施策の効果を高めるよう事業内容を工夫することができます。

独自性の視点

- ▶ 子どもの学びについて、教育分野に関する専門家だけでなく、様々な分野の専門家と共同研究を行い、子どもたちの個別最適な学びにつながるような研究を行います。

学び続ける  
力の要素

- 実証研究で得た知見は、子どもたちが学び続ける力を培うことができる教育施策を展開する上で、重要な基盤となります。児童生徒が自分の得意や不得意を知ること、「自分を見つめる力」、「ポジティブに考える力」を高めていきます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状	工 程 表				
	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①町田市未来の学び Lab 研究体制構築		研究体制の構築				
指標の達成状況	—	構築				
②児童生徒の「つまずき」の原因とその解消に関する研究		現状把握・研究内容の決定	実証研究	実証研究・効果検証	科学的根拠の確立・教育施策検討	「つまずき」に関する施策立案
指標の達成状況	—	研究内容決定	研究実施	研究実施・効果検証	根拠確立・施策検討	施策立案
③教育施策間の相関関係や相乗効果に関する研究（学力・体力向上、キャリア教育、協働的な学習等）			現状把握・研究内容の決定	実証研究	実証研究・効果検証	科学的根拠の確立・教育施策検討
指標の達成状況	—		研究内容決定	研究実施	研究実施・効果検証	根拠確立・施策検討

まちだ  
教育コラム

8

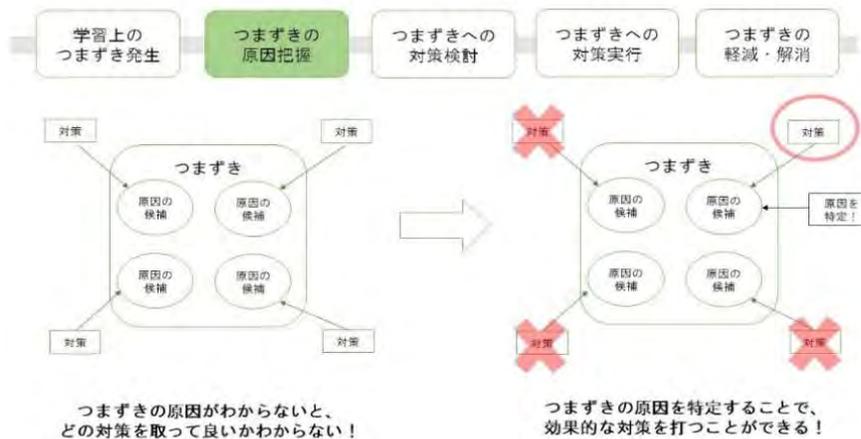
児童生徒の「つまずき」の原因を探る

子どもたちが勉強を「わかる」「できる」「楽しい」と感じることができるように、長年にわたって、全ての教員が指導方法の研究を行い、様々な工夫をするなど努力をしてきました。それでも、学校の勉強についていけない、勉強が楽しくないと思う児童生徒がいます。

「なぜ児童生徒がつまずくのか」については、ベテランの教員でも答えが出ないことが多くあります。

広島県ではこの問いに対し、有識者の方々と開発した「広島県学びの基盤に関する調査」を活用して、児童生徒の「つまずきの原因」を把握し、授業改善や個別の支援に生かしています。

町田市においても、子どもたちの「つまずきの原因」を明らかにし、子どもたちがより「わかる」「できる」「楽しい」と感じる授業へつなげていきます。



### 施策 3. 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する

目指す  
姿

児童生徒が、体力づくりや食の重要性について学ぶことで、生涯を通じて健やかに過ごすための生活習慣を身に付けている。

#### 成果指標

指 標	学校の体育の授業以外で、1日に1時間以上運動する児童生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小5男子	49.2%	小5男子	54.0%
小5女子	28.5%	小5女子	34.0%		
中2男子	72.3%	中2男子	80.0%		
中2女子	52.7%	中2女子	59.0%		

指 標	朝食を毎日食べる児童生徒の割合 (全国体力・運動能力、運動習慣等調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小5	86.2%	小5	90.0%
中2	80.7%	中2	85.0%		

該当する  
重点事業

- ・重点事業 8 健康教育の推進
- ・重点事業 9 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践
- ・重点事業 10 楽しく運動する機会の充実
- ・重点事業 11 学校給食を活用した食育の推進

#### 現状と課題

##### 現 状

- ・本市の児童生徒の体力状況を「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」の結果で見ると、全国や東京都の傾向と同じく小中男女ともに低下傾向にあります。

(参考) 14 ページ「関連データ③体力の状況」

- ・本市の児童・生徒の朝食摂取状況を全国学力・学習状況調査の結果で見ると、児童生徒の朝食摂取率については、朝食を毎日食べていない児童が1割以上、朝食を毎日食べていない生徒が2割以上いる状況です。

(参考) 14 ページ「関連データ④児童生徒の朝食摂取状況」

##### 課 題

- ・本市の傾向は全国・東京都と同じような状況ですが、体力状況の低下傾向を抑制する取組として、まずはスポーツや運動に対して楽しみや魅力等を児童生徒が実感できるような授業づくりをするとともに、学校内外に関わらず体を動かす機会を増やし、運動習慣参加者を増やしていく取組を一層充実させていくことが重要です。

重点事業

基本方針Ⅰ—施策3 生涯を通じて健やかに過ごせる体を育成する

8

健康教育の推進

目的

- ・児童生徒が自分の生活習慣(適切な運動、食事、休養及び睡眠)や心身の状態について見直す機会を健康教育に位置づけることで、健康的な生活習慣の実践力を育みます。
- ・朝食レシピコンテストを通して、食への関心が高まり、料理をすることの楽しさや食生活の大切さについて考え、必要な栄養やバランスのよい食事について理解を深めます。

対象 児童生徒

属性 継続/発展

所管課 指導課

概要

- 基本的な生活習慣を身に付けるためのプログラムを開発し、推進します。
- 国の体力調査の結果などから、小・中学校の児童・生徒の健康教育に関わる状況を分析し、小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」を改定し、食育、がん教育、生活習慣の改善に向けた取組を推進していきます。また、外部講師を活用した、がん教育を推進していきます。
- 「自分で料理することの楽しさ」や「食生活の大切さ」を改めて考え、必要な栄養やバランスのよい食事について理解を深めるために、町田市立小・中学校朝食レシピコンテストを実施します。
- 「朝食レシピコンテスト」受賞レシピを小・中学校の給食で提供します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：自分自身の健康へ関心をもち、健康的な生活習慣の確立に向けて行動しようとする意識が高まります。

経営の視点

▶ 町田市の児童生徒の現状を分析することで、町田市の実態に沿った食育、がん教育、生活習慣の改善を図ります。  
▶ 町田市で収穫できる旬の野菜の活用方法を検討し、レシピに取り入れます。

独自性の視点

▶ 朝食レシピコンテストで受賞した作品は学校給食のメニューに採用したり、町田市公式 twitter や cookpad にレシピを掲載したりするなど、様々な媒体を通じて市民に広く推進します。

学び続ける  
力の要素

○ 児童生徒が自分の生活習慣(適切な運動、食事、休養及び睡眠)や心身の状態について見直す機会を健康教育に位置づけることで「自分を見つめる力」が高まります。

活動指標と工程表

活動指標	現状	工程表				
	2022年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
①基本的な生活習慣を身に付けるためのプログラムの推進		プログラムの推進				
		プログラムの開発		プログラムの見直し		
指標の達成状況	—	開発・推進	推進	見直し・推進	推進	推進
②小中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」の改定・推進		カリキュラムの推進				
				カリキュラムの改定		
指標の達成状況	改定・推進	推進	推進	改定・推進	推進	推進

## 9

## 「わかる・できる・楽しい」体育授業の実践

## 目的

・児童生徒が体を動かすことが「楽しい」、運動の仕方や身に付ける動きが「わかる」、基本的な動きが「できる」など、体育授業を通して運動に親しむ態度を育成します。

**対象** 児童生徒・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

指導課

## 概要

- 専門家や専門的な知識と技能をもつ人材と直接触れることができる「体育実技モデル派遣」を実施します。
- 個に応じた指導の充実につながるよう、小・中学校の希望校において「体育授業サポーター※派遣」を実施します。
- 手本になる動きや自分自身の動きを必要に応じて確認できるアプリを導入します。

**デマンド  
サイドの視点**

- ▶ 児童生徒：楽しく運動する経験を積み重ねることによって、運動の習慣化とともに生涯にわたって運動しようと思う意識が身に付きます。
- ▶ 教員：外部人材との連携により、子どもたちに対してこれまで以上にきめ細かい指導ができるようになります。

**経営の視点**

- ▶ 民間事業者や大学との連携を図り、事業者や大学のノウハウや強みを生かして体育授業の充実を図ります。

**独自性の視点**

- ▶ 個に応じた指導の充実につながる「体育授業サポーター派遣」を実施します。
- ▶ 手本になる動きや自分自身の動きを必要に応じて確認できるアプリを導入します。

**学び続ける  
力の要素**

- 楽しく運動する経験を積み重ねることによって、「挑戦しようとする力」、「粘り強く取り組む力」を育みます。

※ 体育授業サポーター…体育授業の中で、運動が得意な子どもや苦手な子ども等に対してそれぞれ積極的に支援し、個に応じた指導を行う授業補助者のこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①体育実技モデルの派遣（小学校）		大学等との連携・調整	体育実技モデル派遣			
指標の達成状況 ▶	—	連携・調整	全小学校	全小学校	全小学校	全小学校
②体育授業サポーター派遣人数		大学等との連携・調整	体育授業サポーター派遣			
指標の達成状況 ▶	—	連携・調整	10人	15人	20人	30人
③アプリの導入校数		モデル校アプリの選定	アプリの導入・活用			
指標の達成状況 ▶	—	アプリ選定	全校	全校	全校	全校

**連 動 事 業**

▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- IV- 1- 34 コミュニティ・スクールの推進(P128)
- IV- 3- 42 「学校支援体制の強化」(P148)



体育授業の様子



ゴール型ゲーム「町田ボール」の様子

## 目的

・体育授業以外に様々な運動の機会を設定することで、生涯にわたって運動に親しむ子どもを育成します。

**対象** 児童生徒

**属性** 継続／発展

**所管課** 指導課

## 概要

- 各学校において、休み時間等における運動遊びの充実などに取り組み、気軽に楽しく運動する機会の充実を図ります。
- 全校が参加する連合体育大会※1(小・中学校別)を開催します。
- 児童生徒参加型のスポーツイベントとして、町田市内を6つの地区に分けて「体力向上パワーアップDAY」※2を開催します。

デマンド  
サイドの視点

▶児童生徒：体育の授業以外にも楽しみながら運動する機会があります。また、町田市立陸上競技場を会場とする連合体育大会では、本格的なアスリートと同じように陸上トラックを使用して運動することができます。

## 経営の視点

▶運動内容や人数など実施形態を工夫する等、様々な運動の機会を設定することで、生涯にわたって運動に親しむ子どもを育成します。

## 独自性の視点

▶「体力向上パワーアップDAY」では、児童の実態に応じた各地区独自の運動プログラムを実施し、児童だけでなく地域の幼児も含め多くの子どもたちに運動の楽しさを伝えることができます。

▶小学校連合体育大会は、町田市立全小学校の第6学年の児童が集い、運動を通じて交流する一生に一度しかない貴重な経験になります。

学び続ける  
力の要素

○学校内外での運動機会を設定し、運動を通じて交流することによって、「人のよさを認める力」、「協力しようとする力」を育みます。

※1 連合体育大会…町田市立全小学校の第6学年の児童及び町田市立全中学校の各学校から選抜された生徒が、陸上競技場という整備された環境で競技することで、他校との交流を深め、互いに認め合い、励まし合うことを通して、スポーツの町田市としての連帯意識を高める大会。

※2 体力向上パワーアップ DAY…子どもたちが学校・家庭・地域において、楽しく運動やスポーツに取り組み、生涯を通じて運動に親しむきっかけをつくるため、小学生だけでなく、地域の未就学児を対象とした運動体験イベント。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①一校一取組の実施校数		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校
②体力向上パワーアップ DAY 実施 地区数		実施				
指標の達成状況 ▶	1地区	1地区	1地区	1地区	全地区	全地区
③連合体育大会（小・中学校別） 参加校数		実施				
指標の達成状況 ▶	全校	全校	全校	全校	全校	全校



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

●IV- 1- 34 コミュニティ・スクールの推進( P128)



小学校連合体育大会



体力向上パワーアップ DAY

## 11

## 学校給食を活用した食育の推進

## 目的

・子どもたちが、給食をはじめ、食に関わる学びや体験を通じて、食に関する知識を深めながら、自分に適した望ましい食選択、食行動を実践できる力を育めるよう、子どもたちの「なりたい自分」に寄り添った食育を推進していきます。

**対象** 児童生徒

**属性** 継続／発展

**所管課** 保健給食課

## 概要

- 中学校全員給食の導入を契機に、小学校・中学校9年間の学校給食を活用した「食育プログラム」を策定し、小・中一貫町田っ子カリキュラム「健康教育」や「まちだ健康づくり推進プラン24-31」と連携しながら実践します。
- 地場農産物や旬の食材等を給食食材として活用しながら、児童生徒への魅力的な給食の提供や、食に関する学びや体験の提供について、様々な事業者が知恵と技術をもち寄り、ともに創るための提案制度など、事業者とのコラボレーションの仕組みづくりを進めます。
- 提案制度を立ち上げた後に、地場農産物を活用した町田オリジナル給食メニューの開発や、市内飲食店とのコラボメニューの開発、食育講座の開発など、事業者とのコラボレーションによる取組を行います。
- まちだ縄文キャラクター「まっくう」給食やホストタウンとなっている国の料理を提供する取組等、他部署と連携した学校給食の提供を行います。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：給食をはじめ、食に関わる学びや体験を通じて、主体的に食に関する知識を深めながら自分に適した望ましい食選択、食行動を選択できる力を培うことができます。また、地場農産物を活用することで、子どもたちがより身近に、実感をもち、地域の自然、食文化、産業等について理解を深めることにつながります。さらに、食に関する事業を展開する民間事業者をはじめ、多様な人たちや児童生徒同士で協働する中で、様々な知識や考えに触れ、対話しながら、多角的・客観的に物事を判断し、創造的に解決できる力を培うことができます。

## 経営の視点

▶ 多様な事業者の知恵や技術を用いることによって、食事情に関する環境変化に対応しながら魅力的な給食づくりを行うとともに、食育の充実を図ります。

## 独自性の視点

- ▶ 小学校・中学校9年間の学校給食を活用した、小・中一貫の「食育プログラム」を策定することにより、組織的・計画的・継続的な食育を推進します。
- ▶ より広く多様な事業者とともに魅力的な給食づくりや食育を創造することができる提案制度などの仕組みを構築します。

学び続ける  
力の要素

○ 給食をはじめとする食育によって、「自分を見つめる力」、「挑戦しようとする力」、「人のよさを認める力」を育みます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①食育プログラムに基づく食育の実施		食育プログラムの策定	食育プログラムの実施		食育プログラムの検証・見直し	
指標の達成状況 ▶	—	策定	実施	実施	検証・見直し	検証・見直し
②事業者とのコラボレーションを行う仕組みづくり		仕組みづくり				
指標の達成状況 ▶	—	構築				
③事業者とのコラボレーションで実現できた給食・食育に関する取組件数		仕組みづくり	実施			
指標の達成状況 ▶	—	構築	1 件	1 件	1 件	1 件
④他部署とのコラボレーションによる給食の取組件数		実施				
指標の達成状況 ▶	3 件	3 件	4 件	4 件	4 件	4 件

まちだ  
教育コラム

9

小学校・中学校9年間の学校給食を活用した食育の推進

食生活を取り巻く社会環境の変化などに伴い、子どもたちの食に関する課題(朝食の欠食、栄養摂取の偏りや野菜嫌いなど)が多様化する中、中学校給食では 2025 年度までに、「全員給食・給食センター方式」による全員給食を実施し、小学校・中学校の 9 年間を通じて、子どもたちの感覚・感性に響く学校給食を提供します。

9 年間の全員給食が実現することを契機に、将来にわたり、子どもたちの望ましい食選択、食行動を実現できる力をより強化するため、「食育プログラム」を策定します。また、小学校・中学校 9 年間の学校給食を活用し、子どもたちの「なりたい自分」に寄り添った食育を実践します。食育プログラムは、次の視点を重視して策定します。

- ・なりたい自分づくりのための健康な体づくりに適した栄養素を知る。
- ・学校給食に郷土料理、行事食を取り入れることで日本の豊かな食文化に触れる機会や、地場農産物を活用することで地域の良さを知る機会を設ける。
- ・農産物の生産者の方との交流を通して、生産の工夫などを知る機会を設ける。
- ・農産物の栽培・収穫・調理等の体験活動を設ける。

町田市では、全ての市内の公立学校に通う児童生徒に対して学校給食を活用した、「食育プログラム」による組織的・計画的・継続的な食育を推進していきます。

## 施策4. 他人への理解、豊かな心、思いやりを育む

目指す  
姿

児童生徒が自分の考えと違う他人に対して理解し、豊かな心、思いやりをもっている。

### 成果指標

指標	「人が困っているときは、進んで助けている」の項目について肯定的に回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小6	87.4%	小6	93.0%
	中3	85.5%	中3	91.0%	

指標	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の項目について肯定的に回答した児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)		目標値(2028年度)	
		小6	72.4%	小6	80.0%
	中3	76.6%	中3	80.0%	

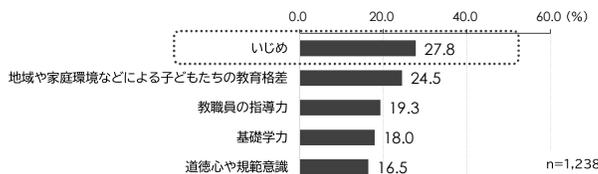
該当する重点事業  
 ・重点事業12 「いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る」取組の推進  
 ・重点事業13 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実

### 現状と課題

#### 現状

- 児童生徒の保護者は、子どもたちの教育や環境の中で「いじめ」を課題と感じている割合が高く、また、学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいと感じている割合も比較的高くなっています。
- 児童生徒の保護者と教員は、子どもたちが「思いやり・他人を大切にする心」が身に付いていないと感じている割合が1割以上となっています。

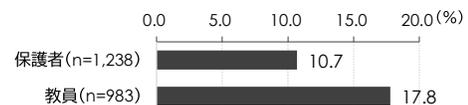
▽児童生徒の保護者用アンケート調査結果  
子どもたちの教育や環境について、課題と感じていること(上位5つのみ抜粋)



▽児童生徒の保護者用アンケート調査結果  
町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいもの(上位5つのみ抜粋)



▷児童生徒の保護者用・教員用アンケート調査結果  
「思いやり・他人を大切にする心」が「身に付いていない」と回答した割合(保護者回答と教員回答)



#### 課題

- 子どもたち同士の関係性や意見の伝え合い方などを、学校での教育活動全体を通じて学ぶ機会を増やし、教員もより意識を高めていくことで、いじめの予防につなげるとともに、いじめの問題に対して、児童生徒及び教職員、保護者、地域が一体となって取り組んでいく意識の向上と体制づくりが求められます。

まちだ  
教育コラム  
10

## 「子どもにやさしいまち」を目指して

子どもたちが楽しく健やかに成長していくためには、当たり前のように安全・安心な生活があり、拠り所となる居場所があり、自分の思いを自由に伝える機会があることが大切です。

このことは、「子どもの権利」として「子どもの権利条約」に定められています。今、大人である私たちに求められていることは、「子どもの権利」を尊重し、これからの未来を担う子どもたちのことをしっかりと考え、責任をもって守っていくことです。

この大人の責務を明確にするため、町田市は2023年12月に「町田市子どもにやさしいまち条例（まちだコドマチ条例）」を制定しました。この条例には、保護者、施設関係者、地域住民、事業者など、それぞれの立場で「子どもが幸せになるために、私たち大人は何ができるのかを考え、行動する」きっかけになってほしいという思いを込めています。

一方、子どもたち自身が、「自分には何ができるのか」を考えることも大切です。自分の思いを自由に伝え、“やってみたい”ことを実現しようとする経験は、社会に参画するための貴重な礎となります。

今、学校では授業や様々な活動の中で子どもたちが自分の思いを考えたり、その思いを友達や先生に伝えてみたりという経験を積んでいます。その中では、思いがかなうことも、かなわず悔しい思いをすることもあろうでしょう。

また、2022年度から「町田市児童生徒フォーラム」を開催しています。このフォーラムでは、児童生徒の身の回りや起きていることや関心のあること等について、自分で考え、友達や他校の児童生徒と議論をし、自分たちで考えたことを意見表明しています。さらに、フォーラムでの内容を各学校での取組に生かしています。

このように、子どもたちが社会に参画していく上では、学校内外での体験活動により、様々な経験を得ることが大切になります。

そのため、学校を中心とした地域社会全体で子どもたちのことを支え、子どもたちを中心にした“子どもにやさしいまち”の実現を目指します。

### 「子どもの権利」とは？

すべての人が持っている「人権」の中でも子どもが、人間らしく、幸せに生きられ、健康に成長するために特に大事にする必要があるものです。「子どもの権利」を大きく分けると、「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つに分けられます。「まちだコドマチ条例」では、この4つの「子どもの権利」を子どもにも大人にもわかるように、以下のように示しています。

#### 生きる権利

安全安心な環境で不安なく、子どもが生きていく権利

#### 育つ権利

子どもが心も体も健やかに、色々な経験をしながら、自分らしく成長するための権利

#### 守られる権利

大切な「子どもの権利」が侵害されないように、子どもが守られる権利

#### 参加する権利

子どもが、社会の一員として、自分に関わることについての意見を表明する権利

## 目的

いじめ問題の未然防止・早期発見・早期解決を図るため、学校・家庭・地域が連携し、学校の教育活動全体を通じて取り組みます。

**対象** 児童生徒・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

指導課

## 概要

- 町田市いじめ防止基本方針<sup>※1</sup>に基づき、いじめ事案発生の際の組織的な対応の流れをまとめたフロー図を活用して、いじめ問題について組織的な対応を図ります。
- 児童生徒がいつでも投稿できる、いじめ匿名連絡サイト「スクールサイン」<sup>※2</sup>や、特定のキーワードを児童生徒が入力した場合に検知する「キーワード検知機能」を活用しいじめ問題等の早期発見、早期対応につなげる取組を実施します。
- 「学級満足度尺度、学校生活意欲尺度、ソーシャルスキル尺度を把握する心理検査」（以下「心理検査」とする）を小学校第5学年、中学校第2学年で実施し、児童生徒の悩みや学級の課題に適切な対応を図り、より良い学校生活を送ることができるような集団づくりを進め、いじめ等の未然防止に積極的に取り組めるようにします。
- 東京都が6月と11月に実施しているいじめ防止強化月間「ふれあい月間」中に、いじめに関する授業やいじめ防止に関する取組、個別面談等を実施し、児童生徒がいじめについて考え、教員が児童生徒の状況を把握するとともに教員間で共通理解を図り、組織的にいじめや問題行動等の早期発見、早期対応を図ります。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒：いじめを「しない」「させない」「許さない」という意識を高めることができます。
- ▶ 教員：アンケート調査や心理検査の測定によって、教師がこれまで認識しにくかった子どもたちの実態を把握することができ、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に向けた具体的な対応にあたることができます。

## 経営の視点

- ▶ ふれあい月間のアンケート結果や心理検査を活用し、子どもたちの様子をあらゆる手段でとらえます。また、調査結果等を活用することで、早期に具体的な取組を進めていくことができます。

## 独自性の視点

- ▶ いじめの早期発見のために毎月「心のアンケート」を実施します。
- ▶ 学校いじめ対応チームの定例会の実施を毎月1回位置づけ、「心のアンケート」の情報共有、事案の確認、対処方針の検討などを行い、いじめが起きにくい・いじめを許さない環境づくりを進めます。

学び続ける  
力の要素

- 心理検査や児童生徒がいじめについて考える取組などを通して、「自分を見つめる力」、「人のよさを認める力」を育成していきます。

※1 町田市いじめ防止基本方針…「いじめ防止対策推進法」及び「東京都いじめ防止対策推進条例」に基づき町田市が定めている基本的な方針のこと。

※2 スクールサイン…いじめなどの悩みや心配な友達のことについて、児童生徒が匿名で一人1台貸与しているタブレット端末やスマートフォン等から連絡できるサイトのこと。



## 13

## 児童生徒が主体的に考え、伝え合う機会の充実

## 目的

・自分の身の回りのことなど、自分に関係あることについて、自分の意見を述べたり、友達の様々な考えに触れたり、受け入れたりすることで、友達とともに考えを深めることができ、他人への理解や豊かな心を育みます。

**対象** 児童生徒

● 属性

新規

● 所管課

指導課

## 概要

- 市内の児童生徒の代表が集まり、フォーラムを実施します。自分たちの学校生活の中にある課題などについて各校で議論した内容を、意見交換したり、自分たち自身で何ができるかを主体的に話し合ったりし、まとめた意見などを市内の学校へ発信します。各校では、発信された意見などを踏まえ、これまでの様々な活動と関連付けながらテーマに応じた取組を実施します。
- 日常の活動や学習の中で、全ての児童生徒が友達の様々な考えに触れたり受け入れたりしながら、学び合う機会を特別活動や各教科の単元で設定し、充実させていきます。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：自分に関係する様々な課題について、自分自身でじっくり考えをまとめたり、他者と議論したりする機会があります。また、課題に対する議論を通して、解決策や方向性を自分たちで導き出し、今後の取組に生かすことができます。

経営の視点

▶ 町田市子どもにやさしいまち条例第6条「参加する権利」を実現するために、自分たちの学校生活の中にある課題などについて、意見交換したり、自分たち自身で何ができるかを話し合ったりし、まとめた意見などを市内の学校へ発信し、各校でフォーラムのテーマに応じた取組を実施することができます。

独自性の視点

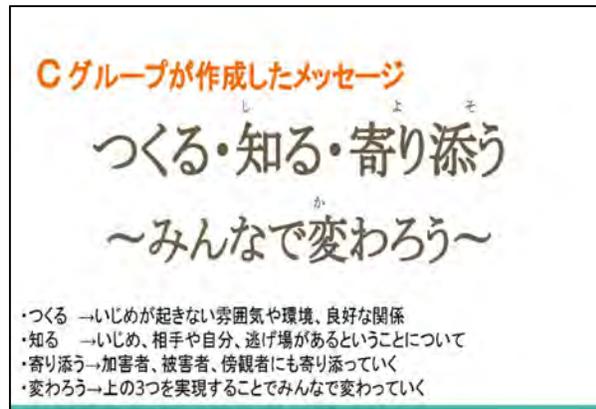
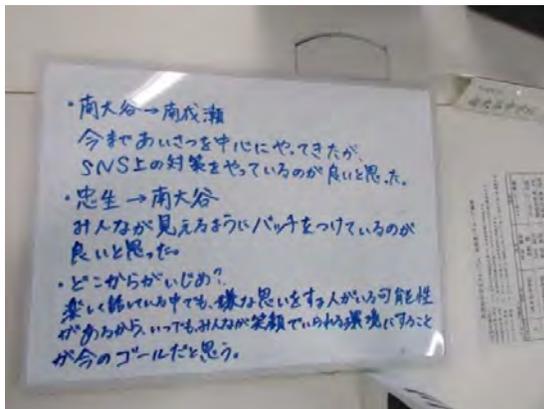
- ▶ 学校の実態に合わせた形で発信する機会を提供できます。
- ▶ 話し合った内容を市内の小中学校全校へ発信し、各学校の取組に生かしていきます。

学び続ける  
力の要素

○ フォーラムや日常の活動、学習を通して、「人のよさを認める力」「挑戦する力」などの学び続ける力の土台を培うことができます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①児童生徒フォーラムの実施		児童生徒フォーラム実施				
指標の達成状況 ▶	中学校全校	中学校全校	中学校全校・ 小学校各地区 代表2校	中学校全校・ 小学校各地区 代表2校	中学校全校・ 小学校各地区 代表2校	中学校全校・ 小学校各地区 代表2校
②「児童生徒が学び合う機会」の 教育課程への位置づけ（全学年）		見直し・設定				
指標の達成状況 ▶	—	全校	全校	全校	全校	全校



子どもの権利のうち「参加する権利」に関する取組：町田市中学生フォーラム（2022 年度）

## 施策5. 学びのきっかけとなる機会を提供する

目指す姿

市民が身近な場所で学びに触れる機会が充実している。

### 成果指標

指標	生涯学習活動を行う機会をもつことができた市民の割合 (町田市市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		24.7%	41.5%

指標	本を読む市民の割合 (町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		59.1%	68.0%

該当する重点事業

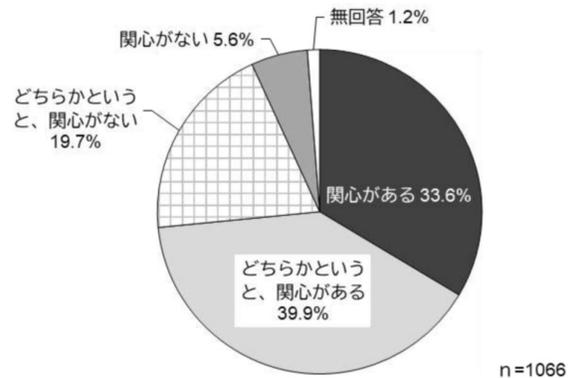
- ・重点事業 14 まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実
- ・重点事業 15 ことばの魅力を伝える“ことばの扉”事業の推進
- ・重点事業 16 子ども・若者の読書活動の推進
- ・重点事業 17 学びの入口の充実
- ・重点事業 18 学びにつなげる図書館体験

### 現状と課題

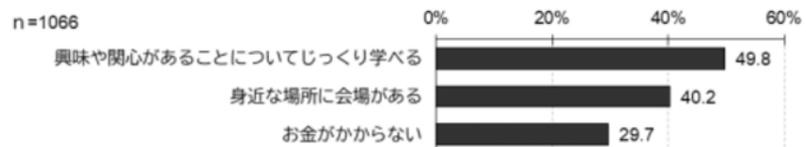
#### 現状

- ・生涯学習活動に「関心がある」又は「どちらかという、関心がある」と回答した市民は7割以上と高くなっています。また、学習講座等への参加の際は、約4割の市民が「身近な場所に会場がある」ことを重視しています。

▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識アンケート調査結果「生涯学習活動への関心度」



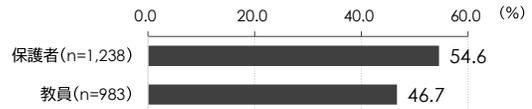
▽町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果「学習講座やイベント、展覧会などに参加する際、重視する点」(上位3位のみ抜粋)



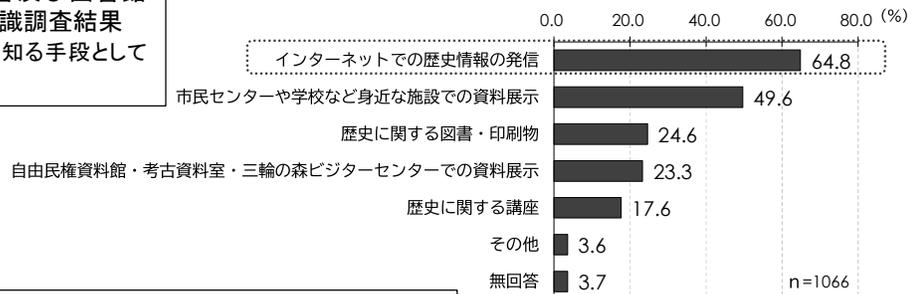
現 状

- ・児童生徒が、地域の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心が身に付いていないと感じている保護者及び教員は5割前後と高くなっています。
- ・町田市歴史を知る手段として必要だと思うこととして、「インターネットでの歴史情報の発信」が最も高くなっています。
- ・約4割の市民は本をほとんど読まないと回答しています。

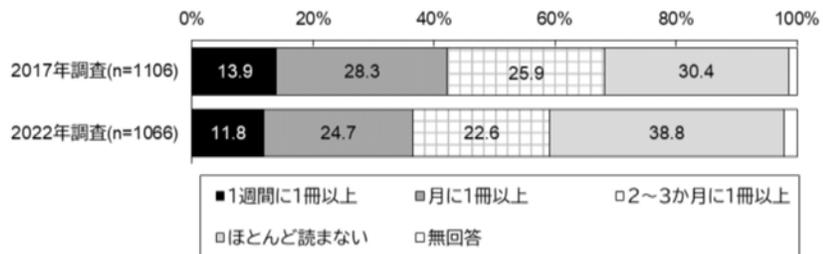
▷児童生徒の保護者用・教員用アンケート調査結果  
「地域の伝統や文化を大切にし、郷土を愛する心」が「身に付いていない」と回答した割合  
(保護者回答と教員回答)



▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果  
「町田市の歴史を知る手段として必要だと思うこと」



▷町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査結果  
「本を読む頻度」



課 題

- ・人生100年時代を迎え、ライフステージに応じて生涯を通じて学びにアクセスできるよう、市民に身近な場所での学びの入口を提供することが必要です。
- ・地域の歴史・伝統や文化は、地域への誇りや愛着を生むきっかけとなるものです。町田デジタルミュージアムなどを活用し、子どもたちの興味・関心を高める工夫もしながら、地域の歴史・伝統や文化を学ぶ機会を充実する必要があります。
- ・本を読む市民の割合が低くなる中で、本と出会うことや文学に触れる体験を通じて、子どもや若者の創造力を高めて豊かな心を育むことが重要です。

## 14

## まちだの歴史・文化を学ぶ機会の充実

## 目的

・市民が町田市の歴史や文化を大切に、郷土に愛着や誇りをもてるよう、町田市の歴史や文化を学ぶことができる機会を充実させます。

**対象** 児童生徒・市民

**属性** 継続／発展

**所管課** 生涯学習総務課・図書館

## 概要

- 町田市の歴史や文化を学ぶことができるプログラムを作成し、小・中学校にPRを行って事業を実施します。
- 市民が町田市の歴史や文化に触れる機会の充実を図るため、町田市固有の歴史・文化資源を活用したアウトリーチ事業(学校、市民センター、子どもセンター等での講座や展示、各地域の歴史資源を活用したフィールドワーク等)を実施します。
- 毎年度効果を検証し、市民のニーズに沿った事業内容に更新しながら実施します。
- 町田ゆかりの作家や町田が登場する文学作品を紹介する展覧会・教育普及事業を実施します。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒：小・中学校での歴史の授業の際に、「町田デジタルミュージアム<sup>※</sup>」を活用し、町田市の歴史や文化を身近に学ぶことができます。
- ▶ 市民：身近な場所で町田市の歴史を学ぶことができます。

## 経営の視点

- ▶ 自由民権運動の「自由」「平等」「人権」などを紹介することにより、現代社会で身近な学びとして地域に生かします。

## 独自性の視点

- ▶ 町田市固有の歴史や文化資源を活用します。
- ▶ 縄文時代の豊富な考古資料、自由民権運動、養蚕・製糸業などを町田市の歴史の特徴ととらえ、市域の歴史を学ぶ機会を提供します。

学び続ける  
力の要素

- 市内の児童生徒が地域への理解を深めることで、自分が住む地域について愛着や誇りをもつことができます。

※ 町田デジタルミュージアム…インターネットを通じて町田市の代表的な考古、歴史、民俗資料を紹介するサイトのこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度	
①小中学校向けプログラム件数		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	1 件	2 件	4 件	5 件	5 件	5 件	
②新規アウトリーチ事業件数（累計）		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	—	2 件	4 件	6 件	8 件	10 件	
③町田ゆかりの作家/町田が登場する文学作品を知ってもらうための事業の実施件数		実施	検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	3 件	3 件	3 件	4 件	5 件	6 件	

**連 動 事 業** ▼この重点事業と連動して推進する関連事業  
 ●Ⅲ- 2- 32 「まちだの歴史・文化資源の保存と活用環境の整備」( P122)



出張歴史授業



民俗体験講座(紙すき体験)

# 15

## ことばの魅力伝える“ことばの扉”事業の推進

### 目的

・子どもからお年寄りまで、あらゆる世代の人たちに、ことばや文字、文学の魅力に触れる機会、学びのきっかけとなる機会を提供します。また、世代を超えて多様な考え方や価値観に触れ、コミュニケーションを図ることで、創造性を高め、豊かな心を育てていきます。

**対象** 市民

**属性** 継続／発展

**所管課**

図書館

### 概要

- ことばや文字、文学の魅力伝え、新たな学びや学びのきっかけとなるような展覧会や教育普及事業を実施します。
- 未来を担う若い世代にことばや文字、文学の魅力伝えるため、ジャンルにとらわれることなく近接する分野を幅広く取り込んだ事業を展開します。
- ショートショート\*コンクール等の創造性を育み、創作の魅力を感じられる事業を実施します。

### デマンド サイドの視点

▶ 市民：ゆったりとした心安らぐ空間で、日々の生活の中では得ることのできない「ひらめき」や「気づき」を伴った芸術体験をすることができます。展覧会や各種事業を通して、多様な考え方や価値観に触れることができ、豊かな心を育むことができます。

### 経営の視点

▶ デジタル化に取り組むことでアクセシビリティを高め、より多くの人がかことば、文字、文学の魅力に触れる機会を創出します。

### 独自性の視点

▶ 多摩 26 市唯一の総合文学館として、ことば、文字、文学を柱にした事業を展開しています。

### 学び続ける 力の要素

○ 感性を刺激し、知的好奇心を喚起する事業、学びの成果を発表する事業を通して、新たな学びや自ら学ぶきっかけをつくり出します。

### 活動指標と工程表

活動指標	現状	工程表				
	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
① “新たな学び” や “学びのきっかけ” につながる展覧会の実施		実施	検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	実施	実施	実施	実施	実施	実施
② 若い世代（10 代・20 代）に向けた事業件数		検証を踏まえた実施				
指標の達成状況 ▶	2 件	3 件	3 件	4 件	4 件	5 件
③ ショートショートコンクールへの応募作品数		ショートショートコンクール開催				
指標の達成状況 ▶	887 作品	1,050 作品	1,100 作品	1,150 作品	1,200 作品	1,250 作品

※ ショートショート…アイデアとそれを生かした印象的な結末のある、短くて不思議な物語のこと。

重点事業

基本方針Ⅰ—施策5 学びのきっかけとなる機会を提供する

16

子ども・若者の読書活動の推進

目的

子どもや若者が多種多様な情報から主体的に必要な情報を選び、自身の考えを形成する能力を身に付けることができるように、子ども・若者の読書活動を推進します。

対象 市民

属性 継続／発展

所管課 図書館

概要

- 「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」を策定し、推進します。
- 読書や図書館に興味をわくようなイベントを実施し、子どもや若者が読書や図書館に興味をもつきっかけをつくります。
- 文学館では絵本や児童文学などを題材にした展覧会・イベントを開催し、絵本や物語の魅力を伝えます。

デマンド  
サイドの視点

▶市民：イベント等へ参加することにより、読書に興味をもつ機会が増えます。

経営の視点

▶子どもの成長に合わせた取組を行い、読書習慣が身に付くように読書活動を推進します。

独自性の視点

▶子どもや若者が読書に興味をもつように、子どもや若者自身が参画できる読書普及イベントを実施します。

学び続ける  
力の要素

○子どもや若者が読書に興味をもつことにより、新たな学びや自ら学ぶきっかけをつくり出します。

活動指標と工程表

活動指標	現状	工程表				
	2022年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
①「第五次町田市子ども読書活動推進計画(2025年度～2029年度)」の策定と推進		計画の検討・策定	事業の推進・進捗管理			
指標の達成状況	▶ —	策定	推進	推進	推進	推進
②若者が参画する読書普及イベントの実施件数		企画・実施・検証				
指標の達成状況	▶ 1件	2件	2件	3件	3件	3件
③絵本、児童文学、漫画を題材にした展覧会の実施		企画・実施・検証				
指標の達成状況	▶ 実施	実施	実施	実施	実施	実施

連動事業

▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- Ⅲ-1-30 「学校図書館の機能強化」(P116)
- Ⅳ-2-39 「地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援」(P139)

# 17

## 学びの入口の充実

### 目的

- ・たくさんの学びの入口を提供し、市民の活動の場を広げ、“いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち”をかなえます。
- ・学びのきっかけづくりを重視した事業展開により、生涯学習活動を行う機会をもてた市民の割合を増やします。

**対象** 市民

**属性** 継続／発展

**所管課** 生涯学習センター

### 概要

- 2023年2月に策定した「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」に基づき、講座事業を体系化し再編します。施策Ⅰ-5では「学びの裾野を広げる」事業として、学びに出合う「きっかけづくり」に重点を置いた入門講座の充実を図ります。
- 生涯学習センターの利用が少ない若者層や働く世代のニーズを把握し、事業を検討して実施します。

### デマンド サイドの視点

▶ 市民：学びの入口が充実することで、学びに出合うきっかけが増えます。利用の少ない世代からのニーズを把握し事業を実施することで、若者から中年層の利用につながります。

### 経営の視点

▶ 民間活力を導入することにより、民間の優れたノウハウを生かした臨機応変な運営が可能となります。

### 独自性の視点

▶ 「入門講座」は、町田市の特性である大学等の教育機関の多さを活用するなど、民間、とりわけ教育機関との連携を強化します。

### 学び続ける 力の要素

○ たくさんの学びの入口を提供し、市民の活動の場を広げ、“いくつになっても自分の楽しみが見つかるまち”をかなえます。

### 活動指標と工程表

活動指標	現状 2022年度	工程表				
		2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
①「学びの裾野を広げる」事業の実施		実施	検証・検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	—	実施	実施	実施	実施	実施
②若者・中年層向け事業の実施		若者等からの意見聴取・事業の検討	若者向け事業の実施	壮年・中年向け事業の実施	検証・検証を踏まえた実施	
指標の達成状況 ▶	—	検討	実施	実施	実施	実施
③アウトリーチ事業の割合		実施	検証・検証を踏まえた実施			
指標の達成状況 ▶	13.0%	15.0%	17.0%	18.0%	19.0%	20.0%

### 連動事業

#### ▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- Ⅱ-3-22 「学びのセーフティネットの充実」(P98)
- Ⅲ-2-31 「生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備」(P120)
- Ⅳ-2-37 「地域での学びの拡充」(P136)
- Ⅳ-2-40 「学びのネットワークづくりの促進」(P140)

重点事業

基本方針 I — 施策 5 学びのきっかけとなる機会を提供する

18

学びにつながる図書館体験

目的

・市民の学びのきっかけとなるように、図書館サービスをより多くの人に体験してもらう取組を実施します。

対象 市民

属性 継続／発展

所管課 図書館

概要

- 自分に合った図書館の利用方法を知ってもらうための講座等を実施します。
- 本との出会いをつくるため、移動図書館によるイベントへの出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動を実施します。
- 暮らしの中で役に立つレファレンス事例を紹介するリーフレット等を作成するなど、レファレンスサービス※を身近に感じる取組を実施します。

デマンド  
サイドの視点

▶市民：図書館が使いやすくなることや、自身が行うネット検索では手に入れない情報を得ることにより、生活の質の向上が図られます。また、移動図書館によるイベントへの出張運行や保育園・幼稚園への訪問活動により、本との新しい出会いが増えます。

経営の視点

▶子どもから大人まで、あらゆる世代を対象にした体験を提供できます。

独自性の視点

- ▶一日図書館員等の人気のコンテンツを活用できます。
- ▶移動図書館を3台もつ自治体は都内では町田だけで、機動性を生かした図書館体験を提供できます。
- ▶市民に寄り添ったきめ細かいレファレンスサービスを提供します。

学び続ける  
力の要素

○必要な知識や情報を図書館で調べる方法を知ってもらうことにより、生涯にわたって学びを支えます。

活動指標と工程表

活動指標	現状	工程表				
	2022年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度
① 図書館講座・図書館員体験の実施回数		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	8回	8回	8回	8回	8回	8回
② 移動図書館の出張運行箇所		企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	10か所	12か所	12か所	14か所	14か所	14か所
③ レファレンス件数		レファレンスの実施				
指標の達成状況 ▶	3,853件	4,000件	4,050件	4,100件	4,150件	4,200件



この重点事業と連動して推進する関連事業

- II-3-23 「多様な図書館サービスの提供」( P100)

※ レファレンスサービス…利用者からの様々な調べものについて、図書館の資料や機能を活用してお手伝いするサービスのこと。

## 基本方針Ⅱ 一人ひとりの多様な学びを推進する

### 施策1. 不登校児童生徒への支援を推進する

目指す  
姿

不登校児童生徒への支援を推進することで、不登校児童生徒が、自身に合った学習環境を選択している。

### 成果指標

指標	教育支援センター利用者満足度 (町田市教育支援センター利用者アンケート) ※不満を1、満足を10とした場合の利用者の評価点の平均点	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		8.5点	9.1点

該当する  
重点事業

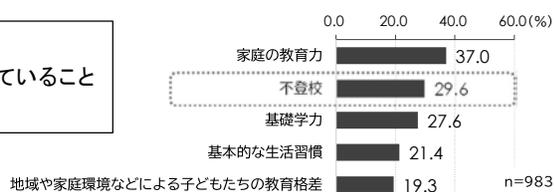
・重点事業19 不登校児童生徒への支援の充実

### 現状と課題

#### 現状

- ・2022年度現在は、不登校児童が382人、不登校生徒が713人となっており、増加傾向にあります。  
(参考) 17ページ「関連データ④不登校児童生徒の状況」
- ・教育支援センター通室児童生徒数は、2020年から2021年にかけて児童数が2倍弱、生徒数は約4倍と増加しており、ニーズの高まりがうかがえます。  
(参考) 18ページ「関連データ④不登校児童生徒の状況」
- ・教員用アンケートでは、児童生徒の教育や環境について課題と感じていることで、3割近い教員が「不登校」と回答しており、2番目に多い状況です。

▷教員用アンケート調査結果  
児童生徒の教育や環境について、課題と感じていること  
(上位5つのみ抜粋)



#### 課題

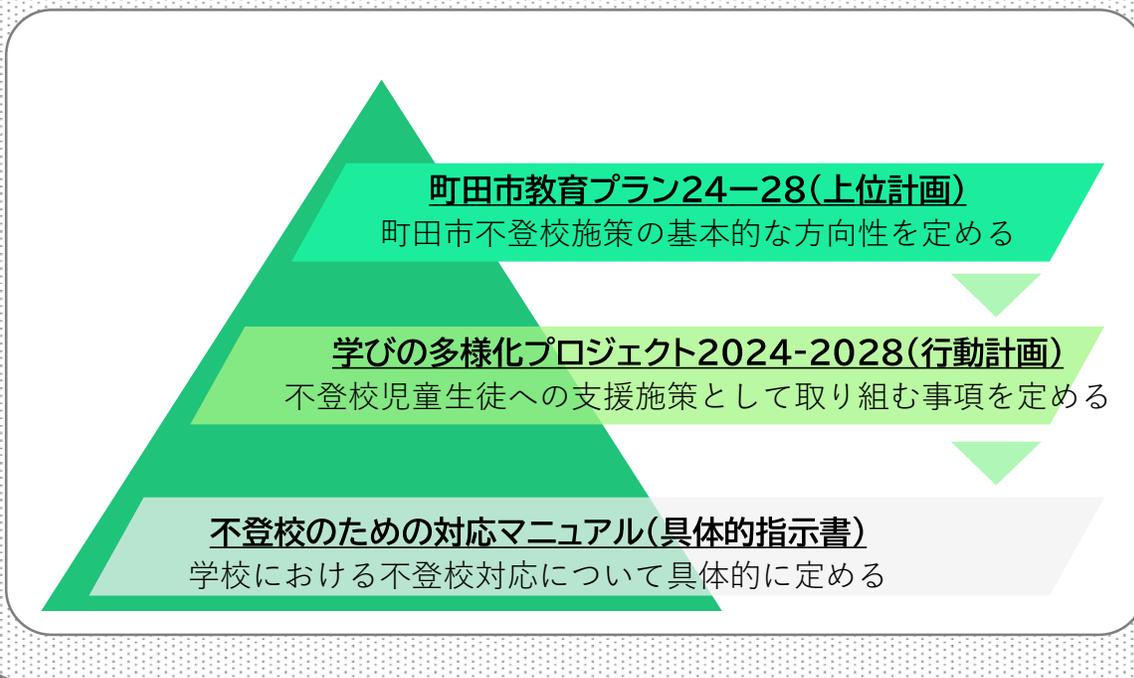
- ・不登校児童生徒数は増加傾向であり、教育支援センターの利用ニーズも高まっています。登校の状況に関わらず、学びの場や居場所を確保できる支援や体制の整備が求められています。

## 不登校児童生徒への支援

文部科学省では、「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」等に基づき、不登校児童生徒への支援を行うよう促しています。2023年3月には、「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策」として、『COCOLOプラン』が策定されました。不登校は誰にでも起こり得ること、不登校が積極的な意味を持つ場合もあるととらえた上で、仮に不登校であったとしても学びたいと思った時に学びにつながるができるよう、多様な学びの場や居場所を確保することが求められています。

町田市教育委員会では、「学校に行く子も行かない子も、安心して育つまちだ」を目指して、2024年度に始まる「学びの多様化プロジェクト 2024 - 2028」を策定しました。学校を休んでいたとしても、同年代の子どもの交流や進路選択に必要な学習指導、時間やお金の管理など社会生活に必要なスキル等が得られるよう、様々な学びの場を確保します。

教育支援センター(けやき教室・くすのき教室)の複数設置や、学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の開設などの学びの場を拡充するとともに、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等の校内専門職を活用して、必要な学びにアクセスできるよう支援します。



## 目的

・不登校児童生徒一人ひとりがニーズに応じた学びを進めることができるよう、不登校児童生徒への支援の充実を図ります。

**対象** 児童生徒・保護者・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

教育センター

## 概要

- 2022 年度に不登校施策の集約及び総括を目的に設置した不登校施策検討委員会において、不登校児童生徒への支援施策を検討します。
- 不登校施策検討委員会の外部有識者からの助言を踏まえ、2023 年度に策定した第 1 期学びの多様化プロジェクトの実施結果を検証した上で、2028 年度に第 2 期学びの多様化プロジェクトの策定を行います。
- 現在 1 か所設置している不登校児童生徒が利用できる教育支援センター※1 を複数箇所に設置して、学習支援や居場所づくりを進めます。
- 学びの多様化学校※2 設置に向けての準備として、分教室の開設や学校統合により空き校舎となる建物の活用等について検討します。
- 市独自のスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーといった校内専門職を活用することで、支援機関と児童生徒のニーズをつなぎます。
- 不登校児童生徒支援モデル校を指定し、校内教育支援センターを運営します。学校内で居場所や学習支援の場を確保することで、校内支援の充実を図ります。
- 市内でフリースクール※3 を運営する団体などで構成するフリースクール等連絡会を開催し、フリースクール等との連携を進めます。
- 必要とする保護者に情報が届くようにするため、不登校に関する相談先を集約した一覧について、各学校への配布やホームページへの掲載を行います。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒・保護者：学びの多様化プロジェクトに基づいた支援が行われることで、登校状態に関わらず同年代との交流や進路相談を含めた学習指導を受けることができます。
- ▶ 教員：専門職等の活用により、校内での支援体制が充実します。

## 経営の視点

- ▶ 学びの多様化プロジェクトについては、改訂作業を見込んだ計画を立てます。また、第 1 期・第 2 期と分けることで、社会情勢や事業成果を踏まえ、実効性のある計画につなげます。

## 独自性の視点

- ▶ 町田市の不登校児童生徒の実態やニーズに基づいた学びの多様化プロジェクトを策定することで、専門職の活用や教育支援センターの運営を効果的に実施することができます。

学び続ける  
力の要素

- 児童生徒が登校の状況に関わらず、必要な教育や支援を受けられることで、将来に向けて学び続けることができます。

※1 教育支援センター…町田市内の小中学生で、現在、登校が難しい状況にある児童生徒の学びの場のこと。児童向けの「けやき教室」と生徒向けの「くすのき教室」がある。2023 年 4 月に名称を「適応指導教室」から「教育支援センター」に変更した。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①不登校施策検討委員会の開催回数		開催				
指標の達成状況 ▶	1 回	年 3 回実施	年 3 回実施	年 3 回実施	年 3 回実施	年 3 回実施
②学びの多様化プロジェクトの策定		見直し		改訂	第2期学びの多様化プロジェクト策定	
指標の達成状況 ▶	—	見直し	検討	改訂	検討	策定
③教育支援センター設置か所数		設置	検討	設置準備	設置	検討
指標の達成状況 ▶	1 か所	2 か所	2 か所	2 か所	3 か所	3 か所
④学びの多様化学校の設置		分教室型学びの多様化学校※4 設置準備・開設		分教室型学びの多様化学校運営	学びの多様化学校設置準備	
指標の達成状況 ▶	—	分教室設置準備	分教室開設	分教室運営	学びの多様化学校設置計画策定	学びの多様化学校設置準備
⑤校内専門職の配置人数 (A市独自スクールカウンセラー・Bスクールソーシャルワーカー)		配置				
指標の達成状況 ▶	A 5人 B 6人	A 6人 B 6人	A 7人 B 6人	A 7人 B 6人	A 8人 B 6人	A 8人 B 6人
⑥不登校児童生徒支援モデル校の指定校数		指定	効果測定	指定	効果測定	
指標の達成状況 ▶	—	4校	4校	4校	4校	4校
⑦フリースクール等連絡会の開催回数		開催				
指標の達成状況 ▶	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回
⑧不登校に関する相談先一覧の集約・配布回数		集約・改訂・配布				
指標の達成状況 ▶	—	1回	1回	1回	1回	1回



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- I- 4- 12 「『いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る』取組の推進」(P72)
- III- 1- 26 「不登校児童生徒の学習環境の整備」(P107)
- IV- 3- 42 「学校支援体制の強化」(P148)

※2 学びの多様化学校…いわゆる不登校特例校。不登校児童生徒に配慮した特別な教育課程を編成した学校。(2023年8月31日に文部科学省は「学びの多様化学校」と新たな名称決定をした。)

※3 フリースクール…不登校児童生徒に対して、学習活動・教育相談・体験活動などを行う民間の施設。

※4 分教室型学びの多様化学校…不登校児童生徒に配慮した特別な教育課程を編成した学級。

## 子どもの育ちを支える体制

子どもが一日の多くの時間を過ごす学校には、教育の専門家である教員だけでなく、子どもたちの様々な相談に対応する専門家が必要です。町田市では 2013 年度から社会福祉制度や地域福祉に関する情報・知識を有する福祉の専門家であるスクールソーシャルワーカー(SSW)を教育委員会に配置し、学校からの依頼を受けて、関係機関や関係者と連携して児童生徒の課題解決に取り組んでいます。

また、全ての小・中学校には心理の専門家であるスクールカウンセラー(SC)が東京都から週 1~2 日配置されています。SCのニーズが高いことから、町田市では独自採用したSCを追加配置し、全ての中学校で複数配置しています。

不登校や進路相談等の教育的な課題だけでなく、子どもの貧困やヤングケアラー※、不適切な養育など多領域にまたがる相談が増えてきています。町田市では老朽化した教育センターの建て替えに伴い、子ども・子育てに関する様々な支援を切れ目なく受けられる複合施設「(仮称)町田市子ども・子育てサポート等複合施設」の整備を進めています。各領域の専門家が連携し、町田市全体で子どもの育ちを支えていきます。

※ ヤングケアラー…法令上の定義はありませんが、一般的には家族にケアを要する人がいる場合に、大人が担うようなケア責任を引き受け、家事や家族の世話、介護、感情面のサポートなどを行っている 18 歳未満の子どもをいいます。



## 施策 2. 一人ひとりの特性に応じた特別支援教育を推進する

目指す姿

特別支援教育を受けている児童生徒が特性に応じた支援を受けている。

### 成果指標

指 標	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
	特別支援学級在籍及びサポートルーム利用に満足している保護者の割合 (町田市特別支援教育利用状況調査)	—

該当する  
重点事業

・重点事業 20 特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実

### 現状と課題

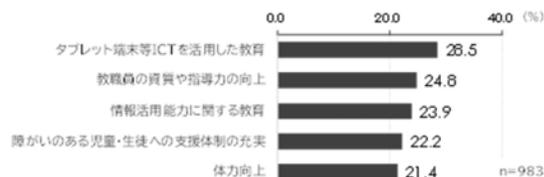
#### 現 状

- ・特別支援学級に通う児童生徒は増加傾向にあり、2023年現在では児童数が527人、生徒数が245人となっています。

(参考) 17 ページ「関連データ③特別支援学級の状況」

- ・教員用アンケートでは、町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいものとして、「障がいのある児童・生徒への支援体制の充実」と回答した教員は約2割でした。

▷教員用アンケート調査結果  
町田市の学校教育で今後、力を入れていくことが望ましいもの(上位5つのみ抜粋)



- ・特別支援教育支援員からは、教員の障がいに対する理解が深いという意見がある一方で、特別支援教育支援員の体制や情報共有等の機会がより充実することが望ましいという意見があります。

▷特別支援教育支援員  
ヒアリング調査結果

(意見)「本市の小中学校に勤める教職員は障がいへの理解や保護者に対する気遣いができている人が多いと感じる」

(意見)「発達に障がいのある子どもたちは、個々に特性が異なり、対応の仕方についても仲間内や教職員と相談し合いたい時があるが、個人情報の問題もあり特定の子どもの状況を気軽に話し合えない」

#### 課 題

- ・特別支援学級の児童生徒数は、増加傾向であることから、今後も増加が見込まれ、学校の支援体制の強化・充実を図っていく必要があります。そのための取組の一つとして、特別支援教育支援員の体制を充実させることで、障がいへの理解を深めている教員への更なるサポートの充実が進み、学校側の支援体制の拡充が図れるものと考えます。

## 目的

・特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりが生活や学習での困難を克服し、個々の能力を最大限生かしていけるよう支援の充実を図ります。

**対象** 児童生徒・保護者・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

教育センター

## 概要

- 特別支援教育に対して専門性の高い教員を育成するために、教育センター主催の研修、校内研修の工夫と充実を図ります。
- 教員の専門スキル向上のために、特別支援教育のモデルとなる授業を展開できる教員を発掘及び育成する「授業リーダー育成事業」を拡充します。
- 全ての教員が適切な支援を実施できるようにするため、2023年度に通常の学級向けの「町田市特別支援教育ハンドブック」を作成しました。今後、新たに特別支援学級、通級指導学級向けの「町田市特別支援教育ハンドブック」を作成、配布します。
- 校内委員会の充実や、発達支援ルーム<sup>※1</sup>の推進など、校内体制充実を図るため、教育センターに所属する専門職等によるアウトリーチを行います。
- 特別支援教育支援員<sup>※2</sup>を継続して全小・中学校に配置するとともに、支援力の向上に向け研修を実施します。
- 新規開設した特別支援学級に対して、特別支援教育支援員を増員して配置し、安定した学級運営を目指します。
- 特別支援教育に対する知識・指導力の向上、教育環境の整備、継続した支援体制の確立等を図るため、2023年度に策定した「第3期町田市特別支援教育推進計画」を推進し、その実施結果を検証した上で、「第4期町田市特別支援教育推進計画」を策定します。
- 特別支援教育について、保護者への理解を促進するため、就学相談会及びホームページ等での情報提供の充実を図ります。

デマンド  
サイドの視点

- ▶ 児童生徒：一人ひとりが安心して学ぶことができ、より一層の学びの充実につながります。
- ▶ 保護者：特別支援教育に対する理解を深めることができます。
- ▶ 教員：特別支援教育への理解が深まり、指導力が向上します。

## 経営の視点

- ▶ 教員向けの研修については、オンライン研修等を通して、指導力の向上に努めます。
- ▶ 特別支援教育支援員に向けた研修を複数回実施し、支援員の資質向上を図ります。

## 独自性の視点

- ▶ 特別支援教育支援員を全小・中学校に配置していきます。
- ▶ 新たに特別支援教育ハンドブックを作成し、研修等で活用していきます。

学び続ける  
力の要素

- 特別な支援を必要とする児童生徒の学び続ける力を育むことができるよう支援を充実していきます。

※1 発達支援ルーム…特別支援教育に精通した職員が対象児童のいる小学校を週1回半年間訪問し、学習面を中心とした認知機能を高めるトレーニングを実施することで、学習への適応及び意欲を高めることをねらいとし実施している事業。

※2 特別支援教育支援員…全小・中学校に配置し、学級担任教諭の補助者として、特別な支援が必要な児童生徒の介助、安全の配慮を行い、学校生活を支援する。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①授業リーダー育成事業の受講教員数		実施				
指標の達成状況 ▶	70 人	100 人	100 人	100 人	100 人	100 人
②町田市特別支援教育ハンドブック (学級種別ごと)の作成及び活用		作成・配布		活用状況確認		見直し 検討
指標の達成状況 ▶	—	特別支援学級 教員向け ハンドブック作成	通級指導学級 教員向け ハンドブック 作成	活用	活用	見直し検討
③特別支援教育支援員向け研修回数		実施				
指標の達成状況 ▶	1 回	1 回	2 回	2 回	3 回	3 回
④特別支援教育支援員配置人数		特別支援教育支援員の配置				
指標の達成状況 ▶	125 人	128 人	128 人	130 人	130 人	132 人
⑤町田市特別支援教育推進計画の策定		第3期計画推進				第4期 計画 策定
指標の達成状況 ▶	—	推進	推進	推進	推進	計画策定



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- Ⅲ- 1- 25 「特別支援学級等の整備」(P106)
- Ⅳ- 3- 42 「学校支援体制の強化」(P148)

まちだ  
教育コラム

13

特別支援教育

特別支援教育は、LD(学習障がい)、ADHD(注意欠陥・多動性障がい)、ASD(自閉症スペクトラム障がい、従来の高機能自閉症、アスペルガー症候群など)の児童生徒を含め、特別な支援を必要とする児童生徒一人ひとりの教育ニーズを把握し、適切な教育を通じて必要な支援を行うものです。

町田市では、小学校入学にあたり、特別な支援を必要とするお子さんの適切な就学先について、保護者と教育委員会の専門家が、ともに考えていく相談「就学相談」を実施しています。

お子さんたちは、一人ひとりがそれぞれ違う個性・能力・可能性をもっています。そして、町田市にお住まいのお子さんの「学びの場」にはいろいろな種別があります。

就学相談を通して、一人ひとりのお子さんにとって望ましい「学びの場」を見つけるとともに、入学先の学校へお子さんの情報を共有して、お子さんに合ったより良い学校生活を送ることができるようにしています。

幼保小連携

町田市では、市内全ての幼児が、幼児期に多様な経験を積み重ね培ってきた力を小学校教育につなげ、伸ばしていくことを目的に、「町田市接続カリキュラム」を活用し、指導を行っています。

5歳児の10月～3月(アプローチ期)、小学校1年生の4月～7月(スタート期)はとても大切な時期です。それぞれに、「アプローチカリキュラム」、「スタートカリキュラム」を作成し、幼児期の教育から小学校教育への円滑な移行を図るとともに、子どもたちが主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことができるようにしています。また、町田市では、次年度に就学するお子さんに対して、「就学支援シート」を導入しています。

「就学支援シート」は、一人ひとりのお子さんが豊かで楽しい学校生活を送ることができるよう、幼稚園・保育園・療育機関などと保護者が協力して作成し、お子さんが就学する小学校へ引き継ぐものです。



【就学支援シート 記入例】

お子さんのお名前		お子さんのお名前、就学予定の小学校名をお書きください。		就学予定小学校名	町田市	小学校	No.1
		幼稚園・保育園から		療育機関等から		保護者から	
好きなこと・得意なこと	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動		<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動	大人に対しては、警戒心や緊張感を持たず、素直な気持ちを表現している。		<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動	数字も書ける。「足し算ができた」とうれしそうに話していた。
嫌いなこと・苦手なこと	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動	人に合わせるのが苦手です、自分の意に添わないとパニックを起こすことがあります。回数は、以前と比べ、少なくなっています。	<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動			<input type="checkbox"/> 聞く <input type="checkbox"/> 話す <input type="checkbox"/> 読む <input type="checkbox"/> 教える <input type="checkbox"/> 片づけ <input type="checkbox"/> 食事 <input type="checkbox"/> トイレ <input type="checkbox"/> 大きな運動 <input type="checkbox"/> 細かい作業 <input type="checkbox"/> 人とのかわり <input type="checkbox"/> 大集団活動 <input type="checkbox"/> 小集団活動	

町田市教育センター

		幼稚園・保育園から	療育機関等から	保護者から	No.2
性格・行動に関すること	<input type="checkbox"/> 性格の特徴 <input type="checkbox"/> 行動の特徴 例：多動性、衝動性、自傷・他害行為、パニック、肌かみ、指しゃぶり、チック、吃音、場面緘黙など <input type="checkbox"/> 興味や関心のある事柄や範囲とその程度等				
指導上の工夫や必要な配慮 (大切にしていた内容や方法) (就学後の支援にむけて)	活動の指示については、言葉より、文字や絵を示すことが有効であった。全体的な指示をした後、しばらく待って、行動に移らないときは、細かい指示をするようにしている。			目と目を合わせながら、話すようにし、時間がかかっても、自分で取り組むようにさせている。そのあと、「がんばったね。」と声をかけるようにしている。	
その他					
※当スペースでは記入できない場合には、別紙にて添付してください。					
関係機関等から (医療機関等)					

町田市教育センター

### 施策 3. 誰もが学べる機会を提供する

目指す姿

誰もが、必要とする知識や技能を習得する機会がある。

#### 成果指標

指標	帰国・外国籍児童生徒等が日本語指導を利用し、 日常会話ができる程度に日本語を習得できている割合 (町田市日本語指導利用状況調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		—	100.0%

指標	必要とする知識や技能を習得することができる市民の割合 (町田市生涯学習及び図書館に関する市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		30.3%	40.0%

該当する重点事業

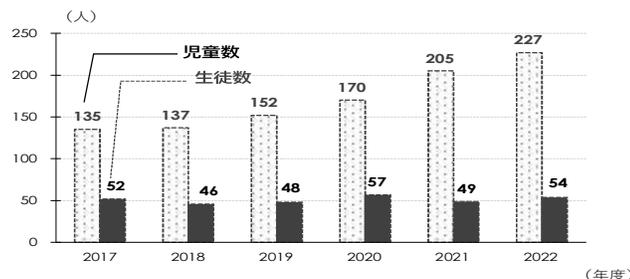
- ・重点事業 21 帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実
- ・重点事業 22 学びのセーフティネットの充実
- ・重点事業 23 多様な図書館サービスの提供

#### 現状と課題

##### 現状

- ・町田市立の小学校に通う外国人児童は、2017年度と2022年度で比較すると約1.6倍となっています。また、町田市立の中学校に通う外国人生徒は、ほぼ横ばいですが、小・中学校全体としては増加傾向にあります。

＜町田市立小・中学校の外国人児童生徒数の推移＞



出典：町田市教育委員会調べ

- ・外国にルーツのある子どもとその保護者は、言語の違い等から地域になじめず、相談ができる相手がいない、情報が得にくいなどの状況があります。

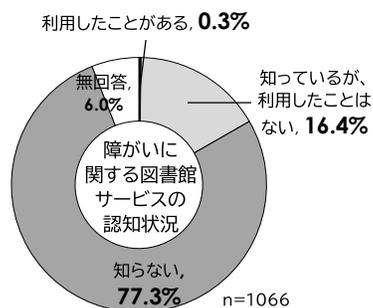
▷教育相談員ヒアリング調査結果

(意見)「外国にルーツがある子どもとその保護者には、言語の違いの問題もあり、地域コミュニティに入りづらいことが課題となっている場合や、子どもの発達に関する悩みも同様の課題から身近に相談できず、コミュニティ形成に関する情報提供等で支援している」

## 現 状

- ・ 図書館で行っている障がい者向けのサービス（宅配サービスや対面朗読など）は、7割以上の方が「知らない」と回答しており、「知っているが利用したことがない」と回答した方と合わせると9割を超える状況です。

▷ 市民用アンケート調査結果  
図書館で行っているサービスの認知状況  
(障がいに関する項目のみ抜粋)



- ・ また、学びの機会の提供について、65.2%の市民が「必要とする知識や技能を十分に習得することができていない」と回答しています。

(参考) 21 ページ「関連データ①学びの機会の提供」

## 課 題

- ・ 外国にルーツがある子どもたちにも十分な教育が提供され、必要な情報が得られる環境づくりを支援していく必要があります。
- ・ 障がいのある人が、より図書館を利用しやすくするための取組をさらに周知し、障がいの有無に関わらず学びの機会が提供される環境づくりを推進することが重要です。

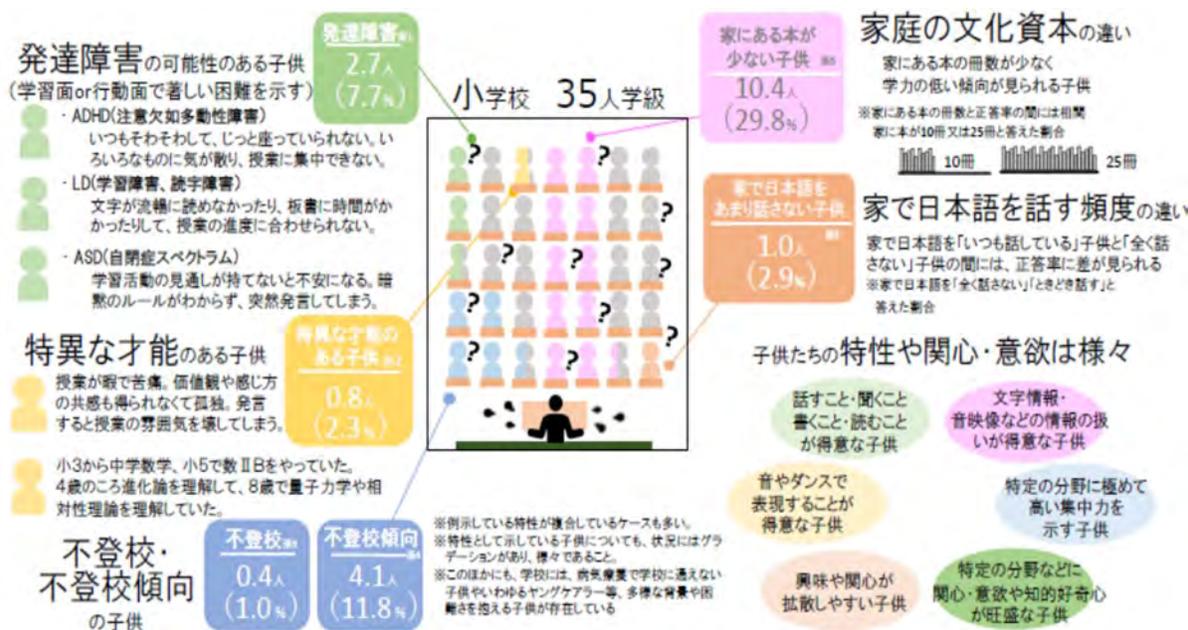
まちだ  
教育コラム  
15

教室の中にある多様性

現在、小・中学校の教室には発達障がいや特異な才能、外国にルーツをもつ児童生徒等、家で日本語を話す頻度が少ないなど、様々な特性をもつ子どもたちが存在しています。学校に馴染めず苦しむ子どもも一定数存在し、町田市でも不登校の子どもは年々増加の一途をたどっている状況があります。

このような「教室の中にある多様性」を認識すると、教員1人での紙ベースでの一斉授業というスタイルでは、対応しきれないという現状が見えてきます。

全ての子どもたちの可能性を最大限引き出せるよう「一人ひとりの特性やニーズに合った学び」を推進できる体制づくりを進めていくことが求められています。



出典：Society 5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ内閣府  
 総合科学技術・イノベーション会議

## 21

## 帰国・外国籍児童生徒等への日本語指導の充実

## 目的

・日本語指導を必要としている帰国・外国籍児童生徒等一人ひとりが、ニーズに応じた指導を受けられるよう、町田市の日本語指導体制の整備を行います。

**対象** 児童生徒・教員

● **属性** 新規

● **所管課** 教育センター

## 概要

- 「町田市版 帰国・外国籍児童生徒等に対する日本語指導手引き」を作成し、日本語指導を推進します。
- 日本語指導員<sup>※</sup>や在籍学級をはじめとした学校の教員が連携し、学校全体での支援体制を構築するため、関係者連絡会を開催します。
- 日本語教員養成課程を設置している市内大学等と連携を行い、日本語指導の在り方を研究します。
- 日本語指導員の指導力の向上を図るため、日本語指導員研修を実施します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：日本語指導員の日本語指導だけでなく、学校全体での支援を実現することで、帰国・外国籍児童生徒等が充実した学校生活を送ることができます。また、外国籍児童・生徒等とともに学ぶことで、学校、学級の日本の子どもたちにとっても、異文化理解、多文化共生、人権尊重につながります。

▶ 教員：日本語指導員との連携等を進めることで、学校での支援体制の充実を図ることができます。

## 経営の視点

▶ 年度途中からの日本語指導児童生徒の受入れに対して、現在指導にあたっている日本語指導員と連携を図りながら指導を実施することで、指導開始までの時間を短縮します。また、日本語指導員に対する研修を実施し、指導の向上に努めます。

## 独自性の視点

▶ 市内にある日本語教員養成課程を設置している大学と連携することができます。  
▶ 現在の日本語指導員の指導も活用した日本語指導体制を整備します。

学び続ける  
力の要素

○ 日本語指導が必要な児童生徒が学び続ける力を育むことができるよう指導の充実を図ります。

※ 日本語指導員…町田市立小・中学校において、日本語指導を必要としている児童生徒に対して日本語指導を行っている有償ボランティア。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①町田市版帰国・外国籍児童生徒等に対する日本語指導手引きの作成		準備	運用			
指標の達成状況	—	作成	実施	実施	実施・見直し	実施・見直し
②関係者連絡会開催回数 (教員担当者・担任・日本語指導員)		実施				
指標の達成状況	—	1 回	1 回	1 回	1 回	1 回
③市内大学等と町田市立学校等が連携した日本語指導の研究実施校数		実施				
指標の達成状況	—	1 校	1 校	1 校	1 校	1 校
④日本語指導員研修会開催回数		実施				
指標の達成状況	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回	2 回



日本語指導の様子

使用教材：東京都教育委員会作成・発行 外国人児童生徒用日本語指導テキスト「たのしいがっこう」

## 目的

・誰もが、障がい等の事情に左右されずに公平に学習することができるよう、学習機会の充実を図ります。

**対象** 市民

**属性** 継続／発展

**所管課** 生涯学習センター

## 概要

- 障がい者青年学級事業及び学習支援事業がより多くの方に届くための検証と持続可能な仕組みづくりを行います。
- デジタルデバインド<sup>\*</sup>対策事業をさらに拡充するために、これまでの事業の検証と実施方法の検討を行います。

デマンド  
サイドの視点

▶ 市民：事業の再構築により公平な学習の機会を提供することで、学ぶ意欲があっても、障がい等の事由で学習機会を享受できない方や、義務教育程度の学習を学び直したい方など、学びに支援が必要な方が、より多くの学びの機会を得ることができるようになります。また、デジタル化に対応するだけでなく、より活用できるようになることで、一人ひとりの生活が豊かになります。

経営の視点

▶ 急速に進むデジタル化に対応するための学習機会の提供を行うとともに、障がい等の事由で通常の学習機会を享受できない方向けに特化した事業を展開することで、誰一人取り残さない学習機会の提供を図り、SDGs4「質の高い教育をみんなに」の目標に貢献できます。

独自性の視点

- ▶ 障がい等の事由で学習機会を享受できない方に、公平な学習の機会を提供することにつながります。
- ▶ デジタルデバインド対策事業は、受講者のレベルに応じた学習の機会を提供することにつながります。

学び続ける  
力の要素

- 様々な理由により学習機会が十分に得られていない方が、学び続ける機会を充実させることができます。
- デジタル化に対応する力を得ることで、さらに多くの学びの機会を得ることができます。

※ デジタルデバインド…インターネットやパソコン等を利用できる方と利用できない方の間に生じる「情報格差」のこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①障がい者青年学級事業の検証と持続可能な仕組みへの再構築		検証・再構築に向けた検討		再構築した仕組みの担い手を検討	再構築した仕組みの準備	再構築した仕組みで実施
指標の達成状況	—	検証・検討	検証・検討	担い手検討	再構築準備	再構築
②学習支援事業の検証と持続可能な仕組みへの再構築		支援が必要な方及び他機関の学習情報の把握	検証・再構築に向けた検討	再構築した仕組みで実施		
指標の達成状況	—	情報把握	再構築	実施	実施	実施
③デジタルデバイドを解消するための事業の再構築		基礎的講座及び活用講座の実施			事業の検証と実施方法の再構築	再構築した仕組みで実施
指標の達成状況	—	実施	実施	実施	検証再構築	実施



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- I - 5- 17 「学びの入口の充実」(P82)
- III - 2- 31 「生涯学習情報のデジタル化の推進と学習相談体制の整備」(P120)

**町田市生涯学習センター** 参加無料

## なんでもスマホ相談室

事前に予約が必要です

**マンツーマン形式!**  
周りを気にせずご自分のペースでOK!

**完全初心者向け!**  
基本操作、メールの送受信、インターネット検索など初歩的な操作をお教えします!

**スマホを持ってなくても大丈夫!**  
スマートフォンをお持ちでない方には、スマホ・タブレット端末をお貸しします!

日時	2023年度の「第2・4 火曜日」と「第1・3 土曜日」の午前中。お一人40分間（開始時間はお問合せください）
場所	生涯学習センター6階 視聴覚室 ほか（町田市原町田6-8-1 町田センタービル）
対象	町田市在住で、スマートフォンの操作に慣れていない方。各日10人まで。
申込	・電話：042-728-0071（生涯学習センター） ・生涯学習センター窓口

お問合せはこちら 町田市生涯学習センター（町田市原町田6-8-1）  
TEL. 042-728-0071 なんでもスマホ相談室担当まで

なんでもスマホ相談室

無料 要申込

## あなたのスマホのセキュリティは大丈夫?

### ～スマホ安心安全教室～

スマートフォンが身近になるにつれて新たなトラブルや社会的課題が増加しています。本講座では、スマホやインターネットを使用する際の基礎知識や、メールに悪意のリンクなどをお知らせします。（講座90分＋質疑応答30分）

日時 2023年 **3月17日(金)** ①10:00～12:00 ②13:30～15:30 ※①②両方受講可

対象 町田市在住で、スマホなどデジタル機器のセキュリティに不安がある方。

定員 各回15名

講師 **五條 眞樹氏**  
ソフトバンク株式会社 CSF本部

申込 事前申込制（先着順）です  
3月1日（水）午前9時受付開始  
町田市生涯学習センター 042-728-0071  
生涯学習センター窓口でも受付します。

会場 町田市生涯学習センター6階視聴覚室（町田市原町田6-8-1 町田センタービル）

主催・お問合せ先 町田市生涯学習センター TEL. 042-728-0071

情報リテラシー向上講座

## 目的

・全ての人が自分の利用しやすい方法で読書ができるよう、読書バリアフリー法に基づいたサービスを提供します。

**対象** 市民

**属性** 継続／発展

**所管課** 図書館

## 概要

- 対面朗読、音訳資料や点訳資料の製作・貸出、資料の郵送貸出サービスなどを行い視覚障がい者等へサービスを提供します。また、図書館への来館が困難な市民に向けて宅配サービスを提供します。電子書籍の特性を生かし、来館が困難な市民の読書を支援します。
- 展示等によりディスレクシア(識字障がい)等を含めた障がい者サービスのPRを行い、利用を促進します。
- 対面朗読などを行っているボランティアの技術向上に向けた講座や、新たにボランティアに興味をもてるような講座を開催します。
- デイジー(デジタル録音図書)再生機器の貸出や操作支援をすることで、障がい者のデジタル資料の活用を促進します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 市民:障がい等の事由があっても、読書ができる環境をもつことができます。

経営の視点

▶ ボランティアとの協力体制を継続します。

独自性の視点

▶ 市内のボランティアと連携・協力することで、障がい者のニーズに的確に対応することができます。

学び続ける  
力の要素

○ 的確なサービスを提供することにより、視覚障がいや識字障がいなどがある方や、図書館への来館が困難な方なども学び続けることができます。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①障がい者サービス PR 展示等の実施 件数		PR 展示等の企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	5 件	5 件	6 件	6 件	7 件	7 件
②障がい者サービスボランティア養成 講座の受講者数		養成講座の実施				
指標の達成状況 ▶	18 人※	10 人	10 人	10 人	10 人	10 人
③デージー再生機器貸出・操作支援		貸出・操作支援の企画・実施・検証				
指標の達成状況 ▶	—	実施	実施	実施	実施	実施

※ 講座内容は毎年異なるため、2022 年度は一時的に受講者が増加しましたが、少人数による実習形式の講座を基本としていることから、工程表では毎年 10 人を指標としています。



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- I-5- 18 「学びにつなげる図書館体験」(P83)
- IV-2- 39 「地域で活動する図書館ボランティアの育成・支援」(P139)

デージー【DAISY】

DAISY 図書とは、目が見えない方や本を読むことが難しい方のための「音の本」です。見た目は CD と同じですが、章ごとに区切りがついていて好きなところから再生できたり、聞く速さを変えたりできるように作られています。専用再生機やパソコンなどで簡単な操作で聞くことができます。



## 基本方針Ⅲ 将来にわたり学ぶことができる環境を整備する

### 施策 1. 将来を見据えた多様な学びの環境を整備する

目指す  
姿

社会環境が変化する中でも、その状況に対応し、小・中学校の教育環境が整備されている

### 成果指標

指標	町田市立の小学校、中学校は教育環境が整っていると思う市民の割合 (町田市市民意識調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		43.7%	54.6%
指標	一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器を授業でほぼ毎日活用している学校の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		小6 81.0%	小6 100.0%
		中3 40.0%	中3 100.0%
指標	市や警察が行う交通安全の取組のうち、「見守りや点検等の通学路での子どもの交通安全確保」について、以前より進んだと思う市民の割合 (町田市交通安全に関する市民意識調査)	現状値(2021年度)	目標値(2026年度)
		29.5%	36.0%
指標	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)読書をする児童生徒の割合 (全国学力・学習状況調査)	現状値(2022年度)	目標値(2028年度)
		小6 75.3%	小6 81.4%
		中3 66.5%	中3 71.4%

該当する  
重点事業

- ・重点事業 24 学校におけるICT環境の整備
- ・重点事業 25 特別支援学級等の整備
- ・重点事業 26 不登校児童生徒の学習環境の整備
- ・重点事業 27 新たな学校づくりの推進
- ・重点事業 28 安心できる通学環境の整備
- ・重点事業 29 学校プール施設の機能向上
- ・重点事業 30 学校図書館の機能強化

## 現状と課題

## 現 状

- ・国が試算する町田市の人口推計では、2021～2025 年の間に人口のピークを迎え、減少傾向に転じる予測となっています。

(参考) 16 ページ「関連データ①今後の人口の動向」

- ・学校統合を行わなかった場合には、2044 年度までに、築 60 年が到来する学校は 55 校となります。

(参考) 16 ページ「関連データ②町田市立学校施設の老朽化の状況」

- ・小学校 6 年生と中学校 3 年生に対して、前年度までに、一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を授業でどの程度活用しましたかという問いについて、「ほぼ毎日」と回答した割合をみると、小学校は全国を上回っていますが、中学校は全国や東京都を下回っています。

<タブレット等 ICT 機器の授業での活用頻度>

		ほぼ毎日	週3回以上	週1回以上	月1回以上	月1回未満
小学校	町田市	81.0%	16.7%	2.4%	0.0%	0.0%
	東京都	73.5%	19.8%	6.1%	0.3%	0.1%
	全国	58.2%	26.9%	12.6%	2.1%	0.1%
中学校	町田市	40.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%
	東京都	62.8%	22.5%	11.6%	2.7%	0.3%
	全国	55.5%	25.7%	14.4%	3.8%	0.5%

(2022 年度全国学力・学習調査)

- ・「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）読書する」と答えた児童生徒の割合は、5 年前の調査と比較して、小学校では 5 ポイント、中学校では 2.6 ポイント下がっています。

<学校の授業時間外に読書する割合 5年間の変化>

調査年度	調査結果	
2017 年度	小 6	80.3%
	中 3	69.1%
2022 年度	小 6	75.3%
	中 3	66.5%

(2022 年度全国学力・学習調査)

## 課 題

- ・本市が人口減少に転じる境目にあり、少子化も視野に入れた学校施設の新設・改修を計画的に進め、学校環境の改善・向上及び学校外で子どもたちが学べる環境の整備・充実を図っていく必要があります。
- ・国の GIGA スクール構想の推進により、学校での一人 1 台タブレット端末配布は実現しましたが、教員や学校での利用に差がみられる状況があります。より活用しやすい環境の整備が必要とされています。
- ・児童生徒の読書時間は、減少傾向にあります。電子書籍の活用など社会変化に合わせた読書環境を整備していく必要があります。

## 目的

・ICT を活用し、誰一人取り残すことのない教育を実現するため、学校における ICT 環境の整備を推進します。

**対象** 児童生徒・教員

**属性** 継続／発展

**所管課**

指導課

## 概要

- 児童生徒及び教員用のタブレット端末の老朽化に際し、機器の更改を行います。
- 学級数の変動に際し、普通教室に大型提示装置<sup>※1</sup>及び実物投影機<sup>※2</sup>を整備するとともに、老朽化した機器の更改を行います。
- 正規教員以外の教職員（非常勤、時間講師、事務職員等）が授業及び校務を迅速に行えるよう、共同で利用できるタブレット端末を一定数学校に整備します。
- 特別教室に大型提示装置及び実物投影機を整備します。
- 学級数の変動に際し、普通教室に通信環境を整備します。
- 特別教室に通信環境を整備します。

デマンド  
サイドの視点

- ▶児童生徒：全ての学校に同水準の ICT 環境（大型提示装置、通信環境等）を整備することで、タブレット端末を活用した、誰一人取り残すことのない教育を実現できます。
- ▶教員：ICT 環境を整備することで、デジタル化した教材を教員間、学校間で共有することが容易となり、教員の業務負担が軽減されます。

## 経営の視点

- ▶普通教室以外への通信環境整備については、社会情勢を注視し、国や都の事業を積極的に活用していきます。

## 独自性の視点

- ▶町田市の特長として、教員用のタブレット端末は1台で校務環境と学習環境を利用できるため、業務改善や教育 DX に取り組みやすい環境になっています。
- ▶国の示す「教育の ICT 化に向けた環境整備5か年計画」では、指導者用コンピュータとして「授業を担当する教師一人1台」を水準としていますが、学校全体の業務効率向上のため、担任以外の授業・校務に携わる教職員への共用タブレット端末の整備を目指します。

学び続ける  
力の要素

- ICT 環境を整備することで、いつでもどこでも誰とでもタブレット端末を活用した協働学習を行えるようになり、児童生徒の「人のよさを認める力」「協力しようとする力」などの「学び続ける力」を育むことができます。

※1 大型提示装置…デジタルコンテンツを大きく映す機能をもつ装置のこと。電子黒板やプロジェクタなどが該当する。

※2 実物投影機…教科書などの手元の被写体を大型提示装置などに映すための機器のこと。

活動指標と工程表

活動指標	現 状 2022 年度	工 程 表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①児童生徒用タブレット端末更改率		2019 年度整備分 更改	2020 年度整備分 更改①	2020 年度整備分 更改②	2022 年度整備分 更改	2023 年度整備分 更改
指標の達成状況 ▶	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
②教員用タブレット端末更改率		2019 年度整備分 更改			2022 年度整備分 更改	2023 年度整備分 更改
指標の達成状況 ▶	100.0%	100.0%			100.0%	100.0%
③特別教室の大型提示装置及び 実物投影機整備率		検討	整備			
指標の達成状況 ▶	—	検討	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
④普通教室の通信環境整備校数		整備				
指標の達成状況 ▶	2 校	11 校	1 校	1 校	0 校	1 校
⑤特別教室の通信環境整備率		整備				
指標の達成状況 ▶	—	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- I - 2 - 5 「ICT を活用した学びの充実」( P56)

## 特別支援学級等の整備

## 目的

・特別な支援を必要とする児童生徒がより充実した学習環境で学べるよう、特別支援学級等の整備を行います。

**対象** 児童生徒・教員

**属性** 継続／発展

**所管課** 教育センター

## 概要

- 知的障がい特別支援学級又は自閉症・情緒障がい特別支援学級を新規開設します。
- 特別支援学級及びサポートルームの教室等を整備し、環境改善を図ります。
- 新たな学校づくりにおける校舎建替えの際に、特別支援学級の新規開設を進め、知的障がい特別支援学級及び自閉症・情緒障がい特別支援学級の全小中学校設置を目指します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒：特別支援学級の新規開設を進めることにより、児童生徒がより近い地域の小・中学校に通うことができます。

▶ 教員：特別支援学級等の環境改善により、児童生徒へのより良い支援や指導が可能になります。

## 経営の視点

▶ 特別支援学級等の教室整備については、学校と相談しながら、空き教室、余裕教室の状況を見極めながら進めることができます。

## 独自性の視点

▶ 小学校の自閉症・情緒障がい特別支援学級は整備していない区市もある中、町田市は6校整備しています。

学び続ける  
力の要素

○ 特別な支援を必要とする児童・生徒がより身近な場所で学べる環境を整備していくことで、学び続ける力を育むことができます。

## 活動指標と工程表

活動指標	現 状	工 程 表				
	2022 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①特別支援学級設置校数（累計）		1校 新規開設		1校 新規開設		1校 新規開設
指標の達成状況 ▶	39 校	40 校	40 校	41 校	41 校	42 校

連動  
事業

## ▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- II-2-20「特別な支援を必要とする児童生徒への支援の充実」(P90)

重点事業

基本方針Ⅲ—施策 1 将来を見据えた多様な学びの環境を整備する

26

不登校児童生徒の学習環境の整備

目的

・不登校の児童生徒が安心して学習に取り組むことができるように学習環境を整備します。

対象

児童生徒・保護者・教員

属性

継続／発展

所管課

教育センター

概要

- 現在 1 か所しかない不登校児童生徒が利用できる教育支援センターを複数設置して、学習支援や居場所づくりを進めます。
- 学びの多様化学校設置の準備として、分教室の開設や学校統合により空き校舎となる建物の活用等について検討します。

デマンド  
サイドの視点

▶ 児童生徒・保護者：不登校又は不登校傾向にある児童生徒が、教育支援センターや学びの多様化学校、ICT 活用による授業共有などを通じ、自分にとってより良い学習環境を選択することができます。

経営の視点

▶ 児童生徒、保護者のニーズや学校現場の意見からわかる実情をよく踏まえた上で、分教室型学びの多様化学校を運営し、「けやき教室」、「くすのき教室」の再編や学びの多様化学校の開設について検討します。

独自性の視点

▶ 学校再編により空き校舎が生じること、また、公共施設再編により教育センターが複合化されることを踏まえ、保護者の利便性を向上させ、児童生徒にとって幅広い学びの場を確保します。

学び続ける  
力の要素

○ 不登校又は不登校傾向にある児童生徒が自分に合った学習環境を選択できるよう整備することで、自ら学び続ける力を育むことができます。

活動指標と工程表

活動指標	現状 2022 年度	工程表				
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	2028 年度
①教育支援センター設置か所数 (再掲)		設置	検討	設置準備	設置	検討
指標の達成状況 ▶	1 か所	2 か所	2 か所	2 か所	3 か所	3 か所
②学びの多様化学校の設置 (再掲)		分教室型学びの多様化 学校設置準備・開設		分教室型 学びの多 様化学校 運営	学びの多様化学校 設置準備	
指標の達成状況 ▶	—	分教室設置 準備	分教室 開設	分教室運営	学びの多様 化学校設置 計画策定	学びの多様 化学校設置 準備

連動  
事業

▼この重点事業と連動して推進する関連事業

- I- 4- 12『『いじめを防ぐ・いじめに気付く・いじめから守る』取組の推進』( P72)
- II- 1- 19「不登校児童生徒への支援の充実」( P84)

## 関連計画1 新たな学校づくり推進計画

### 1 新たな学校づくり推進計画の目的

2021年5月に、町田市教育委員会では、児童生徒数の減少や学校施設の老朽化等の学校を取り巻く環境変化に柔軟に対応しながら、町田に生まれ育つ未来の子どもたちが夢や志をもち、未来を切り拓くために必要な資質・能力を育むことができる環境を創出するため、「町田市新たな学校づくり推進計画」を策定しました。

### 2 新たな学校づくり推進計画の要素

本計画は、市内の小・中学校における以下の3つの要素で構成しています。これらに基づき、2021年度から2039年度にわたって、新たな学校づくりを推進していきます。

- ① 「学校施設整備の基本的な考え方」
- ② 「適正規模・適正配置の基本的な考え方」
- ③ 「新たな通学区域」

### 3 新たな学校づくりで目指すもの

- ① 子どもの教育環境を充実させる

小学校の教室はオープンスペースを整備することで、現在の約64㎡から約110.5㎡に広がり、協働的学習や学年単位の活動を展開しやすくなります。また、中学校の教室は生徒の体格に合わせて教室の広さを1.2倍に拡大し約64㎡から約80㎡に広げます。小・中学校ともに、「ホワイトボード」を整備し、可動式大型提示装置(プロジェクタ型電子黒板)などのICTの活用をする等、投影面や掲示面として汎用性の高い活用を可能とする教室にします。小学校の教室ではランドセルや学用品が収納できる十分なスペースを確保し、中学校の教室では、個人ロッカーを用意します。



② みんなが活動しやすい環境をつくる

図書室は、図書や視聴覚教材といった多様なメディアを活用しながら協働的な学習を展開することができる「ラーニングセンター」になります。

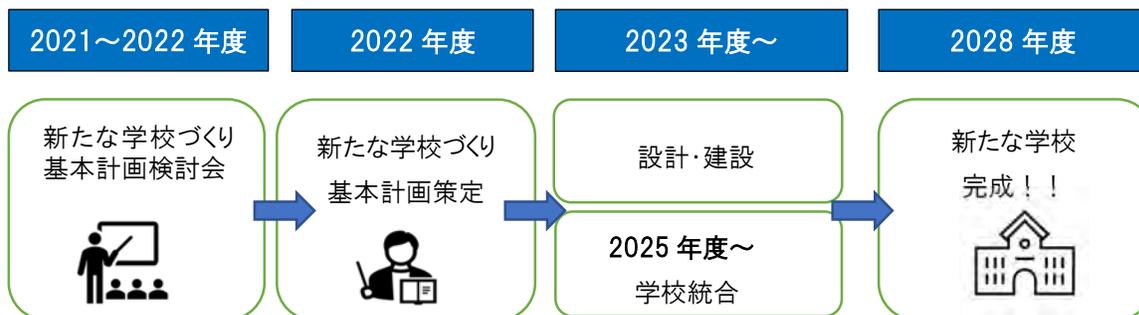
このラーニングセンターは地域活動拠点としても活用します。その他、学校と地域が協働する拠点をつくるため、コミュニティルームを整備するとともに、防災備蓄倉庫の整備など防災拠点としても使いやすくします。



ラーニングセンターの整備イメージ

4 統合・建替えのスケジュール

<本町田地区小学校の例>



<2022年度に新たな学校づくり基本計画を策定した5地区>

番号	地区名	学校名	統合年度	新校舎 使用開始年度
1	本町田地区	本町田東小学校	2025	2028
		本町田小学校		
		町田第三小学校	2028	
2	南成瀬地区	南第二小学校	2025	2028
		南成瀬小学校		
3	鶴川東地区	鶴川第二小学校	2029	2033
		鶴川第三小学校 <sup>※1</sup>		
4	鶴川西地区	鶴川第三小学校 <sup>※1</sup>	2026	2029
		鶴川第四小学校		
5	南第一小学校地区	南第一小学校 <sup>※2</sup>	—	2030

※1 2026年度に鶴川第三小学校と鶴川第四小学校の学区を統合(鶴川西地区統合新設小学校)し、2029年度に鶴川西地区統合新設小学校の一部と鶴川第二小学校の学区を統合します。

※2 南第一小学校は学校統合をせずに、建替え工事のみを行います。